

己卯年

はじめに

任運荘の朝な夕な、いつもせわしげな寮母たち。そばでたたずむお年寄り。ゆったりした時はなかなか持てません。そんな中でふと気になるお年寄りのつぶやきに気にとめ、メモ書きしたものを任運荘ミニコミ紙「おとずれ」に2、3編ずつ掲載したのが一九九〇年十月号からでした。

ご家族からは普段の任運荘の暮らしが見えて、楽しみにしているとのことのお言葉をいただき、励みとなり二〇〇二年より寮母をはじめ利用者に関わる全職員がつぶやきノートに書き留めるようになりました。しかし「おとずれ」に掲載できるのは一部で、いつか「つぶやき集」をと思っておりました。

編集、装丁とすべて任運荘広報委員会の手作りで、つたない物となっておりますが、普段着の任運荘を、かいま見ていただければ幸いです。

二〇〇八年 五月

特別養護老人ホーム 任運荘施設長 廣本賢郎

倉原シノブさん

夜間のオムツ交換時、私の衣類を握りしめて、

「つかまえた。ぜったい離さんぞー!」

そのうち手がするりと離れ、「あっ! 離しましたね」と言うと、「しもうた!」と、楽しい会話でした。

首藤キヨさん

午前9時半に体交をして、11時過ぎに行った時、

反対を向いていたので、「あら、いつの間に反対に

向かれたんですか?」と聞くと、

「あんたが来んき、自分じした」と言う。「あ

ら、2時間くらいでまた来たんですよ」と言うと、

「ニコッ」と笑う。

広瀬ヒサエさん

朝の離床時、

「あんたに、巻き寿司を巻きちゃあ」

(花見の時のお弁当を思い出したのかも)

加藤健清さん

行事掲示板の「五千石祭見物」の案内を見て、

「祭は神事なので、見物でなく、『参拝』

として下さい。教養が疑われますよ」

「はい、わかりました」

足立ヒサヨさん

「96歳のお誕生日ですから、

お赤飯でも食べますか?」と聞くと、

「ハハハ」と笑われる。

戸次マサカさん

「今夜、夜勤です。お願いします。」

一緒に泊まりましょう」

「うちは男とは一緒に寝らん!」

声をかけた寮母がショートカットだったため、

男性と間違えたらしい……戸次さん、私女なんで

すけど……」「うそ言え、男じゃ!」「……」

下田ヨシエさん

敬老会の前日、

「明日は敬老会ですよ。おめでとぅ(めでた)う(う)ります」

「もう93もなったけん、

おめでとぅ(めでた)う(う)ねえわなあ」

「そんなことありません。まだまだ若いですよ。」

長生きして下さいね」

「え、まだ若いかなあ。そんなら

あんたのため、長生きしようかなあ」

首藤キヨさん

朝食時、食事介助する寮母に、

「あんた、化粧をしちよるなあ」

と顔をまじまじと見つめられる。



古庄福元さん・信子さん夫妻

信子さんが大事そうに持った母の日の便り…。

「嫁からよ。いっそも気遣ってねえ。」

と嬉しそう。声を出して朗読すると、福元さんが、

「わしん事は何も書いぢやらん」

と言いなながらも目を細めて嬉しそうでした。

羽田野ヨシカさん

おむつ交換に伺った際、

「んさ、わつからねえ、

たまに(たまに)むす、」

加藤健清さん

花瓶の桜の花を見て

「こういう花を見るとありがたい。」

花瓶の中で満開になっちゃん。あ、いい」

首藤キヨさん

昼食時、酢豚のメニューに

「こりゃ、おいしいなあ。」

あんたどくが作ったんか？

今度、作り方を教えてえな」

戸次 榮さん

オムツ交換時、

「弁当買いに行っち、一緒に食べようえ」

「いいですねえ」

内海敏子さん

「神楽の時、子どもがそばにおって、

荒神とじゃれ合うのがおもしろかった。

たい焼きはあんこがしっぱまで

入って食べうせんかった」

「子どもさんと荒神のやりとりはいいですね。

抱っこされて泣きだす子どもさんいましたね」

廣瀬ヒサエさん

「神楽を舞うしが、

きつい(疲れた)ふうじゃった」

「あれだけ激しく動けば疲れるでしょう。」

汗びっしりでしたものね」

古庄信子さん

「神楽ん人は汗だらけになって、

真剣で良かったな」

「本当に真剣に舞ってくれましたね」

羽田野節子さん

「私は神楽はあまり興味が無いです」

「神楽より模擬店の方が良かったですか？

ぜんざいおいしかったですか？」

古庄福元さん

午後ラジオ体操をしている職員を見て……

「頭の芯がきれいになるわなあ」

「はい。その通りです」

大塚 貢さん

「寮母さん、寮母さん、

早よ飯を食わしちくれんかのお。

ウィスキーも飲ませちくれんかのお。」

「大塚さんの大好物のウィスキー、

忘れてませんよ、今、用意してますよ」

川野シズエさん

「息子に上着を買ってやりてえんじや

けど、とげなんか良かろっか？」

「優しいお母さんですね。」

「今度一緒に服を選びましょうね」

工藤ハツヨさん

「いつもすんません、自分の始末もできん

やろじや、子どもより悪いですなあ」

「そんなことありませんよ、

心配しなくていいんですよ」



衛藤シズエさん

「定期受診の際、先生の顔をじっと見つめ…」

「目がかわいい…」

…先生ちよつと照れ笑い

渡邊嘉昭さん

居室から中庭を見て…

「あれを見ちみなあ、美しい花が咲いちよる

で、百日紅(さるすべり)ん木じゃわあ」

「今が満開ですね。お部屋にも飾りましょう」

↓(飾った後)

「ありがとう。ホールにも飾ちくれなあ」

下田ヨシエさん

排泄介助の際

「すまんですなあ、何べんもしてもうて、

今度あんたが出来ん時は加勢をするわなあ」

「はい、その時はよろしくお願いします」

首藤キヨさん

昼食時に男性相談員が助食していると、

「朝、あんた来んかったなあ。」

「待っちゃったんで」と言う。

私は一度も言われた事がなかったので、

うらやましく思いました。

吉庄福元さん

夜勤時、訪室すると、

「あんたたち、寝ないで申し訳ない」

排泄介助が終わると

「はいもう、寝ちよくれ」

「ありがとうございます。これからが本番です」

下田フミさん

「寮母さん、今日は何曜日な?」

「お風呂はあるんな?」

「あるんなら袋をかけちくれなあ」

「はくい、お風呂の順番が来たら声をかけますね」

※『袋』とは着替えを入れた袋のことです。

戸次マサカさん

「いい米は正月用にとっちゃよつてな。」

「仏さま用にすまきな」

「仏さまを大切にする思い。見習いたいと思います」

工藤ハツヨさん

仙台に住んでいる次男さんが面会に来られ、

帰り際に「また来るね」と手を握ると、

「手が離れんわあ」と

和やかな雰囲気でした。

古庄信子さん

「母の日に、毎年嫁が

小包を送ってくれる。ありがたいです」

「あつ、忘れてました。私も早く用意しないと・・・」



羽田野シモさん

「体の悪い所、どっこもどっこ」

「しもうたき、長生きすると思つてよ」

「長生きして下さることが、私たちの願いです」

渡邊嘉昭さん

「ちよつと来ちてしじ見らんなあ。今、歌がありよるでえ。ほら見ちなあ。いいで」

「渡邊さんは「川中美幸」のファンなんですわね」

佐藤ミヤコさん

「夜なべじ、まんじゅうや」

「ボタモチを作りよった。大変じゃった」

「佐藤さん、作り方を教えてくださいわね」

加藤健清さん

「え、僕はねえ、何事も左からですよ。」

「靴も左足から、服も左手からです」

「はい、わかりました。左からですね」

阿多テル子さん

「子供が可愛いいき、ちつとでん」

「うがいをしち、長生きせ」

「本当に長生きしてくださいわね」

高原ユス子さん

「お父さんが近頃顔を見せん。」

「どーしたんじゃろつか。心配じゃわ」

翌日ご主人が面会に来られると・・・

「せつかく来たのに、もう帰るんなえ」

「高原さん夫妻の仲の良さは」

「思いやる心なんですわね。見習います」

大塚貢さん

「寮母さあ、寮母さあ、寮母さあ。背中かいちくりい、そこじゃねえ、もつと下じやあ。そこそこ、おまやあ、上手じゃのう」

「かゆい所に手が届くというのは、」

「私のことを言うんですか？」

川野シズエさん

「どげんこげんねえ。息子がむげねえ。うちが体が悪いき、何もしちゃげれん」

「川野さんの気持ちは、

息子さんに届いていると思いますよ」

衛藤シズエさん

「あんた、いい顔しちよる。

えくらしい。べっぴんじゃ」

「そう言ってくれる衛藤さんこそ、

べっぴんさんですよ」

廣瀬ヒサエさん

「旦那がとてん優しかったき、

あんまりせちい思いはしちやらん」

「優しい旦那さまだったんですね。

羨ましい限りです」

下田フミさん

「神楽はいつもんのと」

ちこち、とてん良かった。

綿菓子を食べたおいしかった」

「おいしそうに食べられていましたね」

合澤スミエさん

「軸丸人なら本場じゃあき、

やっぱうまいですわな」

「本場の軸丸の方と、町内の若い方たちが

神楽を真剣に舞ってくれました」

川野シズエさん

「神楽は良かった。昔から好きじゃ。

太鼓もなかなかよかったです。

「太鼓の大きな力強い音は、

「元気が出ますよね」



工藤ハツヨさん

「ゆっかいな、ばあさんで、すんません。
こげん、ばあさんでも生きちよれば、
あんたたちに甘えとなるもんじゃき、
困るわなあ」

「困るどころか、甘えてもらうために」

「私たちはいるんですから」

「あ、嬉しいなあ。こげえ年を」

「とってん、あんた達と気持ちは」

「変わらないのじゃがなあ」

下田ヨシエさん

「今日はクリスマス会があるので、」

「歌をお願いしますね」

「いやあ、私は歌はブスじゃ」

「小学校の時からブスじゃ」

高原ユス子さん

「クリスマス&忘年会が終わった後、」

「今日は良かった！ なかなかじゃ」

「ねえで、あんなだけ踊るのは・・・」

「みんな良かった！」

内海敏子さん

「クリスマス&忘年会が終わった後、」

「寮母さんたちの真剣な」

「踊りを見て、涙が出ました・・・」

「本当ですか？もう1回踊ろうかしら？」

首藤キヨさん

朝食時に寮母が「首藤さんの担当やった小野さん（産休でした）が今日から来ましたよ」と言うと、「まゆみさん……」と言ってくれる。憶えていてくれたことが嬉しかったです。

後藤澄子さん

「散髪してサツパリしましたね。」

さらに美人になりましたネ」

「あらま、よくしてよ……」

お世辞がうまいなあ」

甲斐ヒデロさん

政治家の出ている番組を見ていて、

「政治家はいらん事は言わん方がいら」とおっしゃる。「やっぱり言わん方がいいですか?」「いらん事は言わな、悪い事が出らん」

下田ナツさん

離床され、ご自分で食事をされていたので

「自分で食べるご飯は、特別おいしいでしょう?」

「そりゃあ おいしいわあ」

「下田さん、自分で食べるのが上手ですね」

「うめえ（上手）ことねえで」と言われた。

合澤スミエさん

「雨風が聞こえて眠れません。」

眠り薬を一つ、二分の一でも下さい」

「看護婦さんに相談しましょうね」

衛藤シズエさん

排便時、

「生まれましたか?」

「はい、おめでとうございます。産まりました。」

男の子です。名前は何にしますか?」

「どうですか。おめでとうございます。」

「うーん、どうもありがとうございます。?」

阿多テルコさん

ホール前のホワイトボードに

献立表を書いていたら

「いつも楽しみなんで。私なんか

食べるごとしか楽しみがねえきなあ」

「わたしもおなじですよ」

佐藤タマキさん

紅と白のシヤクヤクを見て

「きれいじゃなあ。男と女じゃなあ」

立てば芍薬座れば牡丹歩く姿は…

西チヨコさん

食事介助の時の会話…

「もう少し頑張って食べて下さいね」

「もういいいよお」と、大きな声で言う。

「ま〜だだよお」と返答する。

足立ヒサヨさん

ホールで民謡のビデオを真剣に見ているので、

「民謡は好きですか」と聞くと

「いいわなあ」と、にっこり。

久しぶりに足立さんの笑顔に出会いました。

甲斐ヒデコさん

「甲斐さんは何の花が好きですか？」と聞くと、

「花の花が好きじゃ」「何色が好きですか？」

「ももいろ・・・」

下田ナツさん

「下田さん、朝ごはんですよ」

「あなたはもう食べたんな？」

「はい、家で食べてきました」

「そうな、今日も、」はんはおいしいなあ

「下田さん方のお米かもしれないませんねえ」

「あゝ、それおいしいんじゃないわ」

阿多テル子さん

「今日は良かった、なかなかじゃねえで、あんだけ踊るのには・・・みんな良かった」「ずいぶん夜遅くまで練習しましたよ！」

栄養ドリンク飲んで・・・

古庄福元さん

「どうしたらあんな立派な息子さんになられたのですか？」

「あんだにも早よう、作の方を」

教えちゃげのやあ良かったなあ

「今からでは？」

(顔をマジマジ見ながら・・・)

「うくん、もつちよっと遅かろうなあ」

工藤ハツヨさん

「あんなあ、私ん方は多産系じゃろうか。私ん兄弟は8人で、私が長女で、皆んな元気にしちよる。私ん子も、たったの8人なんよ」

「たった8人なんてすごいですね。

体も丈夫でお元気でないと産めないですよ」

「そつじやろうか？」

産んだんじやないで。でけたんよ。

よう、こん、こんめえ(小さい)腹から

8人も出ちきたでなあ、はははっ

峯田千代子さん

「峯田さん、今日はとてもいい顔をしていますね。いつもそんな笑顔だと良いのですが」

「そう素晴らしい顔はしちよれん！」

「すみません・・・」



西チヨコさん

「小学校の運動会を

見に行かれて、いかがでしたか？」

「暑かった。汗かいた。小さい子が
ようでけた。親戚の子にも会えた。

あゝ良かった」

「また来年も行きましようね」

高山ヒデ子さん

朝の起床時、「高山さん、夜が明けましたよ。

さあゝ起きましよう。

今日も一日頑張つて下さいね」

「がんばるわなあゝ」

下田ヨシエさん

「下田さん、運動会の練習をしましょう」

「えゝ、運動会えゝ？」

「うちには関係ないじゃろっつゝ」

「いいえ。大切な選手の一人ですよ」

「選手えゝ？」

「うちがしきるわけねえじゃろっつゝ」

「93歳でも立派な選手ですよ」

「もうあの世も近い」

「選手はでけんじゃろゝ」

「まだまだ、あの世にはあせらんでいいですよ」

「(死んだ)じいちゃん、

はよ来いと言ひよるわあ

「あそこは良いところですよ。」

だからまだ来んでいいと言つてますよ」

「そっじゃなあゝ。」

行つち戻つち来た人がおらんきい、

よっぽど良い所なんじゃろなあ

佐藤ミヤコさん

お孫さんが面会に来られた時、

眠っていたので、帰った事を伝えると

「そうな、帰ったんな・・」

私が独りになりゃ、寂しいがえ〜

「また来てくれますよ」

「そげえ言よったな?」

「こん次は眠らんじょかんとな!」

下田ナツさん

助食が終わり、

「お食事が済みましたよ。ご馳走様でした」

「あんたが全部食べたんな?」

「・・・」一瞬絶句

古庄福元さん

「夜通し寝らんじ、世話しちもろうち、

すんませんなあ。もつそろそろ、

あんた達も寝ちよくれなあ」

「古庄さんも、ゆっくりり休んで下さいね」

渡部キヨコさん

戸外散歩時に庭の椿の花を見ながら、

「お花がきれいですね」

「うちん方にもある・・・」

【今まで声をお聞きしたことがなかったので、

かすかな声でしたが、驚きと喜びでいっぱいでした】

峯田千代子さん

「寮母さ〜ん、寮母さ〜ん、いま何時な〜」

「峯田さんの時計は、いま何時ですか?」

「いま4時前5分じゃ」

「はい、私の時計と合ってますよ〜」

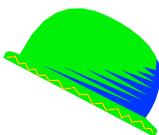
宮本ツヤコさん

帽子を手に持ち・・・

「名前を書いちゃくれね」

「名前は書いてありますよ」

「へい、おおきに」



羽田野ミサヲさん

「立派になったとき、もういっぺん

見合ひしち、嫁子に行かになあ〜」

「パーマをかけますか？」

「そうじゃなあ、パーマをかくると

もつといいかもしれんなあ」

渡邊嘉昭さん

「もつと、魚が食べてえわあ」

「どんな魚がいいですか？」

「魚の寿司が食べてえなあ」

「今度、作ってもらいましょうね」

衛藤シズエさん

「あんだ、気ぜわしいなあ」

「すみません・・・」

下田ヨシエさん

「誰に一票入れようかなあ。」

「うちはあんだに（養母）に一票入れましょう」

「本当ですか？ 私も立候補しようかしら」

佐藤タマキさん

「神さま〜、神さま〜」と手を合わせる。

「神さまがいましたか？」

「じいさんはみんな、べっぴんの神さまじゃ」

「まあうれしい！ありがとうございます」



古庄信子さん

「いつも、よう、こしらえちよるなあ。
もらってばかりで悪いなあ。」

今度、ゆで餅を作っちあげるきな

「楽しみにしてますよ」

羽田野ヨシカさん

おむつ交換時、手を握ると・・・

「あ〜いい所に来た！」

「どうしたんですか？」

「今、年を勘定しよったんじゃ。」

でも途中で分からんかった〜

「私の指を貸しましょう。これで足りませんか？」

下田ヨシエさん

「サルを追いかくる夢を見よった」

「私のこと・・・ですか・・・？」

下田ヨシエさん

寮母の腕を触り・・・

「まあ、こげえ肥えちよらー！

びよびよびじゃ・・・

こっちん人もびよびよびじゃあ。

よ〜肥えちようなあー！」

「下田さん、そんなにぶよぶよ？」

羽田野節子さん

「寮母さん、寮母さん、

私はあんたが大好き」

「あらっ、私も羽田野さんが大好き。

両思いですね」

「あ〜うれしい。良かった！」

後藤澄子さん

入浴時に「私は右手がいいから、

洗えるところは洗いますよ」

「それはありますがどうございます」

衛藤キヨさん

「あんなく、主人がきのう来るはず

じゃーに、来んのじゃわあ。

家じ倒れちよろしめえか？

連絡とつちみちくれんかなあ」

連絡して、無事を確認すると・・・

「あゝ、良かった。ありがとう！」

「主人思いですね」

佐藤ミヤコさん

「トイレに行きましよう」と声がけすると・・・

「運動会にでも、連れち行きなあ」

「確かに外は運動会日和でした」



高野秋子さん

「お酒は好きですか？」「はっ」

「日本酒と焼酎はどちらが好きですか？」

「焼酎です」

「高野さんが若い頃から、

芋焼酎はありましたか？」

「ありましたよ」

下田フミさん

七夕の短冊の願いを聞いたとき・・・

「天の川 天から落ちて ケガをした」

「ケガですめば良いですけど・・・」

下田フミさん

廊下を車イスで自操して移動中、

鉄道唱歌の替え歌で・・・

「寮母さんと寮母さんが喧嘩してさ」

トイレに置かれてまだ来ないさ」

「喧嘩した覚えはないんですが・・・」

工藤ハツヨさん

「なあ、くんもクヨクヨせんじ行くへ、」

「げえ、長生きするんで。」

「若え時は色々考えすぎぢや」

「悪かったけんじ、今はのんびり、」

「すまじちよるわなあ」

「充分のんびりして、長生きして下さいね」

工藤ハツヨさん

「私や夢を見ちよった。イモやら大根を炊い

ち、焦げたら悪いと思うち、水を入れち味を

つけた。味はしょう油でいいわなあ。」

「そうですね。シイタケも入っちよった？」

「シイタケは入っちよらん」とあるけんじ、

はっきのせん。イリ」を入れちよった」とあ

った。「おいしそうな煮付けですね。明日工藤さ

んが煮たのが出るといいですね」

「そげんじっちゃん！」

下田ヨシエさん

「風呂場で白いものをいっぱい付けられた」

「きつと皮膚用の薬ですよ」

「あゝ、皮膚用なあ。昔は足」

「何かできると、灰をかけたんで！」

「灰は皮膚病に効くんですか？」

「どげえ、か分からんけんじ、足に出来物が

できた時は灰をかけるっち言いよったわあ」

「なるほど！ 分かりました」

古庄信子さん

「花公園はいかがでしたか？」の問いに、

「美しかったあゝ。ケシの花が薄い

花びらで、ヒラヒラ揺れて・・・」

「どんな色がありましたか？」

「赤や黄色や白・・・いろんな色があった

あんたも行けば良かったなあゝ」

衛藤シズエさん

コール呼出音の『ピーピーピー』の音に
合わせて、「はづ、はづ、はづ、はづ・・・」と
おっしゃる。

足立 幸さん

朝方、片目のまぶたが開かないので、洗浄
綿で拭き取ると、パツチリと開いたので、
「足立さん、目が開きましたよ」と言うと、

「目がひらいた・・・」とおっしゃり、

入居して初めての声を聞きました。

高橋保夫さん

朝食時、「お世話になります」と言わ
れたので、「いえいえ、こちらこそよろしく
お願いします」と挨拶をする。

安藤武士さん

夜中に安藤さんの目ヤニを取っていると、
「うん、うん」とおっしゃる。「もういいとか誰が
言うんですかねえ」と言うと、「俺が言っただけじゃ」

後藤 絹さん

じつとしているので、「どうしたんですか？」
と聞くと、「あんたを待つちよったんじゃ」
と笑顔が見られた。

工藤ハツヨさん

お盆帰省の時、「今からお家に帰りますよ」と
言うと、「ええ、夢みたいじゃなあ」と
と喜ばれた。

児玉才元さん

介助の時、「やよひちゃんなあ？ こないだ
はありがとうございました」と言われる。

下田ナツさん

「下田さん、私、今度グループが、

他のお部屋に変わりました」と言うのと、

「そうな。また戻っち来てな」

「(涙が出そうなのをこらえながら) ありがとう
ごさいます」

羽田野節子さん

敬老会の日、「今日は敬老会だから、きれいな服を着らんといけんなあ」と言われる。

「そうですね。午後からあるので、お孫さんがお祝いに買ってきてくれた帽子をかぶって行きましようね」「うん。そうしましよ」

甲斐ヒデコさん

日頃無口な甲斐さん。今朝は元気に食膳を

指し、「あながいい」「これがいい」

と指示します。

吉良ユキヨさん

「子供んやつがなあ、自転車ん練習をすめち

言つきい、一緒にしよったんじゃわ。

そげん夢を見よった。あゝ面白かった」

「自転車は上手く乗れましたか？」

衛藤キヨさん

盆踊りの時、浴衣姿の寮母を見て

「ほーっ、いつもべっぴんじゃけど、

今日はどん人も特にべっぴんじゃあ」

「衛藤さん、私が一番きれいでしょ？」

廣瀬ヒサエさん

目に涙を溜めて・・・

「じげん、ありがたい事はないです。」

みんな美しいです」

「廣瀬さん、褒め過ぎですよ！」(男性職員より)

羽田野ミサヲさん

「みんな、よう踊りができたでええ。」

練習をしたけんなあ」

「羽田野さんも、練習に付き合ってくれましたね」

下田ヨシエさん

寮母の浴衣姿を見て・・・

「あんたはよう肥えちよるなあ」

何を食べたら、こげえ肥ゆるんなあ」

寮母「・・・」

工藤ハツヨさん

ズボンがほつれた寮母に・・・

「そんならへい、安全ピンで

止めとまや、いいわ」

「安全ピンでは危ないでしょう」

「安全だから、安全ピン！」

「なるほど・・・」



後藤 絹さん

他の利用者の笑い顔を見て

「あ、私はKさんの笑った顔を

初めて見た。柔らかな顔じゃあ。

いい顔をしちよるなあ」と、

後藤さんもいい顔で笑っていました。

下田ナツさん

爪のチェックをしていると、

「爪を切って」と言われる。爪を切りながら

「食事の方も上手になりましたね」と言うと、

「ポタモチが食べたい」とおっしゃる。

「今度いつしよに作りましょうね」

後藤 絹さん

カキ氷を食べながら・・・

「あ、冷てえ」と、嫌な顔をするので、

「もうやめましょうか？」と言うと

「まだ食べてえ。久しぶりじゃけん」

甲斐ヒデヨさん

「動かなかった左手が、よう動きたしたんで」と左手を動かして見せてくれる。

入浴後「甲斐さん、お腹が空きましたねえ」と言うとき、「本当じゃなあ」

「やはりお風呂に入るとお腹が空きますか？」
「うん、そげえ言うつわなあ」

工藤ハツヨさん

「盆行事はいかがでしたか？」

「大変良かったあ。週に1回は無理じゃろうけど、10日に1回くらい踊りを
見せてくれたら最高やー!」

「そんなに喜んでもらえて私も嬉しいです!」

「もう、うれしいやう」

「ありがたいやう、涙が出るわ」と涙ぐむ。

川邊 充さん

「松本行きんバスは、いつ出るんかなあ」

「今日はもう出ましたから、明日ですね」

「そーなあ、明日出る前に教えてな」

「はい、分かりました」

佐藤ミヤコさん

「ちよっと来い。そこに座れ!」

「どうしましたか?」と手を握ると、

ぐっと握り返し…

「もう、眠たくなったぞ!」

「はい、お休みになって下さい」

「うん!」 すぐに目を閉じて眠りました。

羽田野節子さん

「今日も一日、頑張るぞー!」

「何を頑張りますか?」「全部です!」

下田ナツさん

「あんだ、誰なの？」

「寮母ですよ。顔を見たことがないですか？」

「そう言やあ、見たことがあるわなあ・・・」

「あゝ良かった。忘れられたかと思いました」

「また、忘るるかもしれないで！」

吉良ユキヨさん

中庭の柿を見て・・・

「今年は良う、なっちよるなあ」

「でもあれは渋柿なんですよ」

「なんえー！ 甘柿と思うたら、」

「そげんことな！ すべ食べられんなあ・・・」

「じゃあ、干柿にしましょうか？」

阿南幸丸さん

「今日はお祭ですよ」

「俺は笛吹きやった。今でん吹けるで！」

俺の右に出る者はおらん！」

「すごいですね。今度、吹いて下さいね」

下田ヨシエさん

ぜんざい作りの日、団子を伸ばしながら・・・

「もう、しきらんで。」

ひそう伸ばさんきなあ」

「昔とった杵柄、私よりもきつと上手いですよ」

「本当じゃあ、だんだん作りよると、」

思い出しちきたわ！」

「さすがです。ぜんざいもおいしかったですね」

峯田千代子さん

「あんだ、イクちゃんのとぎ（友達）な？」

イクちゃんに来るように言うて！」

顔見てえち言よったち言うて！」

「姪御さんですね。お伝えしましょう」

「あんだ、もう帰るんな。」

まあ、ここにおちち、話をして！」

首藤キヨさん

「ぜんざいはおいしかったですか？」

「良かった！今度はうどんがいい」とニコリ！

佐藤ミヤコさん

夜勤時、訪室すると、寮母を見て

「おはようございます。」

「機嫌いかがでございますか？」

と言われ、突然のことで絶句する。

羽田野ミサヲさん

夜勤時、トイレ介助の声がけをすると、

大笑いされるので、理由を聞くと

「天井にこんめえ穴があいちよっち、

ねずみが入ったり出たりしよる

夢を見た。どーしち、あげん

夢を見るんじゃないろうか？」

「本当に夢は不思議ですね」

下田フミさん

「あなた、どう行へんぞ？」

「えっ、私ですか？東京に行こうと思います」

「えっへへへっ・・・(ウソと分かった様子)

私はなあ、三重町に行へんぞ？」

「私と一緒にいきますか？」

「んげえ、ごまごまっへー」

工藤ハツヨさん

廊下の伝言板をメガネなしで読まれていたので、

「目が達者ですね。おいくつですか？」と尋ねると、

「大正4年12月31日生まれです。90歳です」

と明確に答える。「健康の秘訣は何ですか？」

「モノクイが良いからじゃ」「モノクイ？」

「食欲のことよ。嫌々でなへん」

おいしく食べると体「良」です」

「仰せのとおり！」

吉良ユキヨさん

通路にたたずんで、ミレーの『落穂拾い』の絵に見入っている。「いい絵ですね」と言う。「いい絵じゃ。しゃんと草取りしよる。」

私も昔は毎日しよったー！」

下田ナツさん

夜間に訪室すると

「となりんに(隣の人に)

布団をかけちゃっつけくれなあ」

「心配ありがとうござります」

「早よ、かけちゃりなあえ」

羽田野シモさん

「11月はお誕生日ですね」

「霜の多い日に生まれました」

「だからシモさんですか？」

「霜が朝日に美しかったと言いました。」

昔は天気を名前にする人が多かった」

「なるほどー」

下田ナツさん

「あんたん、旦那さんはどこに行っただんな？」

「私の旦那さんは仕事に行ってますよ」

「給料もらえるき、いいなあ。給料どりが

いいわあ。うちも給料が欲しいわあ」

「では私が給料をあげましょう。」

どの位がいいですか？」

「そうじゃなあ。いっぴいおくれー！」

工藤ハツヨさん

干し柿作りの翌日・・・

「干し柿は、むら(寒)なると

おいくなるさー！」

「早く寒くなるといいですね」

「いいや、柿には変えられんー！」

寒くなつて欲しくないようです。



工藤ハツヨさん

工藤さんが鼻歌を歌っているので・

「何の歌をうたっているんですか？」

「今度、暇な時に歌いましょう」

「今はお忙しいですか？」

「ええ、今は忙しいんです。アハハ」

峯田千代子さん

「あんたはどこから来よんのなあ？」

「三重町の新田(あらた)からです」

「田んぼが荒れちよんのなあ？」

「田んぼは荒れてないんですけれど・・・」

「じゃあ田んぼが

いっぱいあるんやなあ？」

「あっ！確かに田んぼはいっぱいあります」

羽田野ミサヲさん

作業着(黄色のポロシャツ)を見て・・・

「わあー、部屋ん中がパーっと明るなった。

お天道様が outreach したる」

「羽田野さん、私はあまり若くないから、

こんな明るい色を着るんですよ」

「世話ねえで。まだまだ若えで」

「ありがとうございます。夜勤がんばりますね」

「よろしゅう頼みます」

渡邊嘉昭さん

誕生会の日・・・

「お誕生日、おめでとうございませう」

わしはなあ、29歳になったんでえ」

その後、真面目な顔をして・・・

「ほんとは、わしはいくつになったんや？」

「71歳ですよ！」と言うと、真顔で

「どーしち、そげえ歳とるもんか！」

渡邊嘉昭さん

「俺があと20歳も若かったら、

寮母さんを嫁にもらうのにお〜」

「そうですね、では私ではどうですか？」

「もっと、わけえし（若い人）がいい！」

顔は笑っていても、心で泣いたY寮母：

阿南幸丸さん

「新幹線に乗って、

東京に行く夢を見ちよった」

「どうして東京なんですか？」

「昔、住んじよったんや！」

あん頃は良かったのお〜

「東京のどこに住んでたんですか？」

「青山じゃ！入院しちよった！」

「エー、どこが悪かったんですか？」

「それは秘密じゃー！」

古庄信子さん

居室のごみ集めをしていると・・・

「お金も「ミんじょ」貯まればいらいのなあ

「本当ですね（笑）」

高野秋子さん

早朝の洗顔時に

「その子はくっしになります・・・」

と言われたので、「高野さんは何歳になられましたか？」と聞くと、

「・・・さあ、分かったら教えます・・・」

と言われた。

羽田野節子さん

「羽田野さん、おならが出ましたね？」と

聞くと、「へえ〜・・・」とおっしゃる。

「羽田野さん、だじゃれが上手いですね？」

「ハハハ、そうじゃあ〜」と笑われた。

阿南幸丸さん

「今日は何曜日な?」「今日は金曜日ですよ」「明日は土曜・・日曜・・月曜、風呂まであと3日あるなあ」「お風呂は好きですか?」「おれはお風呂が大好きや!」

山村俊幸さん

写真立てにあつた写真を見せて「山村さん。この人は誰ですか?」と声をかけると、普段ほとんど話をされない山村さんが、写真をマジマジと見て、「それは俺じゃあ」と答えてくれました。

西チヨコさん

昼食の介助中、オレンジゼリーを食べてひと言、「うまい!」とおっしゃる。
「西さんは甘い物が好きですか?」
「ウン!」と笑顔で答えてくれました。

首藤キヨさん

夜中布団を落としていたので、「寒いでしょ?」「さみい。背中がかいゝゝ」
「どこですか?」と背中をさすると、
「もっとうぶ、かいちゅゝゝ」

背中をずつとさすっていると、

「気持ちいいなあ・・」
「もういいですか?」
「うん」とうなずいた顔は笑顔でした。

吉良ユキヨさん

夕食が巻き寿司の時、感想を尋ねると、
「最高!一週間毎日出ていいわ!」
「自分で作った方がおいしいでしょ?」
「そりゃあ、人に作っちもらった方がいいわ」と、笑顔でした。

川野シズエさん

夜間のトイレ介助が終わってひと言、

「おおきー！」

裏の干し柿を取って食べてくんない」

思いがけない言葉にびっくりすると同時に笑いが出てしまいました。(干し柿は利用者と職員が共同で作った物でした・・・)

合澤スミエさん

おやつのスウィートポテトを助食中、

「合澤さん、おいしいですか？」の問いに、

「おいしいちやおいっこ。」

おいしねえちやおいしねえ・・・」

と答えました。

首藤キヨさん

「何が食べたいですか？」の問いに、

「せんぞう」と答える。玉子酒が好きな

ので、「玉子酒は？」と聞くと、

「玉子酒よの焼酎がっい・・・」

「イモと麦はどっちがいいですか？」

「イモがっい・・・」



下田ナツさん

「下田さん、今から寮母さんの

お別れ会があるので、起きましようか」

「えっ、そうなの？ そりゃあ何かつつまんと

いけんなあ……」**下田**でんつつまうか！

児玉才元さん

(朝食時にごはんを食べながら……)

「**今日**が**ごはん**がおいしいよ」

佐藤ミヤコさん

(朝食介助時……)

「**姉ちゃん**、**うちはもう食べれんき**・

そん代わり、**手を握**つちくれんかのお」

「いいですよ、私の手でもいいですか？」

「**姉ちゃん**、**おおきに**」**おおきに**！

と言いつけると

「**姉ちゃんの手は**」**ツイのお**」と言った……

阿南幸丸さん

(ひげそり時に……)

「**俺**は**ほんとは**、**ひげそり**の

音が好かんのじゃあ！

「私はゾクゾクしますよ」

山村俊幸さん

(朝食介助中、朝日が眩しかった時)

「私のおじいさんは毎朝、朝日に手を合わせて

いたんですよ。山村さんはどうでしたか？」

「**ワシも家**ん**ツボ**(庭)から**参**りよった！」

(今朝は言葉が良く聞き取れました)

安藤武士さん

(朝、ひげそりしながら)「ひげそりが終わ

りましたよ。男前になりましたよ！」と言うと

「へへへっ」と笑っていました。

川野シズエさん

「〇〇さん、酢を買い来ちくれたんかな？」

「あっ！ まだ買ってません・・・」

「何え？ 忘れちよったんじゃろ！」

本当にもう、すもつくれん！（仕様が無いの意）

「どうもすみません・・・」

阿南幸丸さん

（夜間時） 阿南さん、枕がずれているので、

直しましょう」

「俺は枕にも嫌われちよるんじゃあ」

「嫌われてないですよ。」

寮母さんはみんな好きですよ」

「そうかなあ・・・。そりゃあ良かった！

好いちよる人が、おるんなら良かった」

首藤キヨさん

（助食中にマスクをしているのを見て・・・）

「どしたんかな？ マスクしち・・・」

「ご飯の時はマスクをするようになった

んですよ。どこか悪いと思って心配して

くれたんですか？」

「うん！」と、大好きな笑顔でうなづく。

工藤ハツヨさん

（夜間の介助時）

「起こしてもうって、おかげで、

とりとばさん（失敗しないの意）ですみます。

ほんとに気の毒なことです」

「大丈夫、私は毒を持ってないですから・・・」

「あんたは、うちに負けん、

おもしろいなあ・・・ハハハ」

衛藤キヨさん

「インフルエンザの注射をしたんですよ」

「泣かんかったかえ〜?」

「痛くて泣きそうでした・・・」

「痛かったじゃろ〜?」

「もう二度と打ちたくありません・・・」

吉良ユキヨさん

(フィギアスケートの荒川静香のニュースを見ながら・・・)

「私もあんな風にオリンピックに行くますかねえ?」と少し足を上げて見せると・・・まじまじと私の足を見て、少しため息混じりに・・・

「あんだ、そらあ相当稽古せじやあ

行かれんでー!」・・・

加藤健清さん

誕生日プレゼントの花がきれいだったの・・・

「加藤さん、お花がきれいですねえ。奥さんのようにきれいですよ」すると手で私をつつき「あはは・・・」と照れ笑い。

高野秋子さん

腹部マッサージをしている看護師に

「おひゃん! じゃらまっちゃん!」

(「苦勞様ですの意」と笑顔で言われる。)

後藤 絹さん

「今日のおやつは、やせうま(郷土料理)ですよ」

と言うと、「肥えた(太った)馬じゃねえんな?」

と言われる。一本とられました。

甲斐ヒデコさん

外へ桜の花を見に散歩中、数本の桜の木を見て

「これは、あんだ方ん桜な?」

と、かすかな声で話される。

羽田野節子さん

「沖縄に行きたいです」と言われる。

「何故ですか?」と聞くと「暖かいからです」と言う。

「ハワイの方が暖かいですよ」と言う

「外国はお金がかかるから駄目です」と笑われる。

倉原シノブさん

「倉原さん、桜を見に行きますか？」と聞くと
「どこかな？」と、久しぶりに言葉が聞かれる。
「岡城か御嶽山に行きますか？」
すると「うん！」と、うなずかれました。

峯田千代子さん

「あんたん歯は、入歯じゃないんやろ？」
「はい、全部自分の歯ですよ」

「入歯んじときれいやなあ」

「ありがとうございます・・・」

高野秋子さん

夜中に声を出されていたので、
「高野さん、もう休みましょう」と
声をかけると

「私は昔から、おとなしいと

言われた事ありませんから」と、

朝までつぶやきは続きました。

工藤ハツヨさん

「私は八人しか子どもを産んじやらんけど、
自分の子どもが一番いいもんで！」
「私は三人も産んだけど、本当に
子どもはいいもんですね！」

戸次榮さん

寮母が戸次さんを、
車いすに移乗しようとした時

「あわてなんなえ。ケガするで！」

思わずドキツとし、気を入れ直しました。

阿南幸丸さん

「今日は風呂があるんな？」

「阿南さん、今日は入浴日じゃないんです」

「そうな。たえんねえなあ・・・」

(がっかりする、情けない等の意)

西 チョコさん

母の日のプレゼントのタオルに名前を記入し、「今度使いましょうね」と仕舞いかけると・

「えっ!」と大きな声を出し、不機嫌そうになる。「ごめんなさい。今、使いましょうね」と手元にタオルを当ててあげると満面の笑みで「うん!」と言いました。

阿南幸丸さん

「阿南さんの干支は何ですか?」

「サルじゃ! あんたは何な?」

「さて、見ての通りですよ」

「ネズミかなあ・・・?」

「いいえ、ネズミより

ちよつと大きくて白いです」

「あっ! プタな?」

「えっ! そんな干支、ありましたっけ?」

工藤ハツヨさん

「工藤さん、ミケがお母さん行つてらつしやい、と言つてますよ」(※ミケとは娘さんが持つて来られた猫のぬいぐるみです)と言うと、『バイバイ』と手を振りながら、「ばあさんが独りで寂しがるうと思つち、買つちきちくれたんやろう」と、娘さんに感謝していました。

工藤ハツヨさん



娘さんが持つてきた猫のぬいぐるみですが、とてもリアルなので、「工藤さん、ニヤ〜とか、声を出すといいですね」と言うのと、「あんた、そげんこと言つてん、鳴いたりしたら、食いもん(餌)の心配をせにゃならんので〜」と、言つたので二人して笑いました。

工藤ハツヨさん

「ミケがごはん食べんことが、むげねえ(可哀想)んじゃなあ……。本当猫(ねこ)といあるになあ……。」「と、少し寂しそうでした。

合澤スミエさん

夕食時、「(こ)ぼろ汁とか作ってましたか？」

「きんぴらを作っていました。(こ)ぼろがやわらかい時は、炒めたりしよったんです」

今日は良くお話をしてくれました。

高原ユス子さん

「母の日の思い出はありますか？」

「子どもたちに、迷惑をかけちすまんなあ……。(こ)言(こと)ひ(ひ)、『生きぢ(ぢ)ゃ(ぢ)ち(ち)く(く)ね(ね)る(る)だけ(だけ)で、私たちの生きがいにな(な)っ(っ)ち(ち)ゃ(ゃ)う(う)に(に)』と(と)ゆ(ゆ)っ(っ)て(て)く(く)ね(ね)ま(ま)し(し)た(た)……。」「

川野シズエさん

テレビで美川憲一のサンリ座の女が流れた後、

「あ(あ)り(り)ゃ(ゃ)あ、サ(サ)ン(ン)リ(リ)の(の)女(め)ぢ(ぢ)ゃ(ゃ)あ(あ)！」と言ったので、「サ(サ)ン(ン)リ(リ)座(ざ)の(の)女(め)ぢ(ぢ)ゃ(ゃ)あ(あ)！」と言(い)う(う)と、

ひと言「あ(あ)っ(っ)そ(そ)う(う)な(な)あ(あ)……。」「

足立 幸さん

5時過ぎに『地震』があった後、訪室する。

「足立さん、今地震がありましたよ」

「ほんとなあ！ あら〜」

「足立さんは眠って分らなかったんですか？」

「うん……。」「震度5とニュースで言っていました。

足立さんのご主人は大丈夫ですかねえ？」

「せわな(な)い(い)と思(おも)ひ(ひ)ぬ(ぬ)」

「今日はたくさんお話ができますね？」

「口(くち)を(を)動(うご)か(か)さ(さ)んと、ま(ま)め(め)ら(ら)ん(ん)な(な)る(る)け(け)ん(ん)な(な)あ(あ)」

古庄信子さん

担当の清水寮母が、古庄さんにきれいな柄のひざ掛けを作ってあげていた。そのひざ掛けを見て、

「清水さんにこん布で、ワンピースを作ってもらったらいいと思うわあ・・・」

高野秋子さん

職員の様子を見て、「会釈がいいなあ〜」

「高野さんも良いですよ。美人ですね」

「いやあ、みんなベッピンやなあ」

川野シズエさん

夜間、「トイレに行きませんか？」と声をかけると、「電灯をつけちくれなあ」

「もう点けてますよ」と言うところ

「いいけん、電灯をつけちくれなあ」

「ですから・・・点いてますよ」と言うところ

「あ、うちが目をつぶっちゃったんやわあ・・・あ、おかしいなあ」と笑う。

高野秋子さん

高野さんの横で唱歌を歌った時、じつと見ていて、一緒に歌ってくれないので

「やっぱり、私の歌は下手ですか？」と聞くと「はい、そうです」と言われる。

「練習してきます」と言うところ

「それがいいですよ」と言われた。

安藤コキクさん

「安藤さんは食べ物の中で何が一番好きですか？」

「うちわなあ、菜っ葉が好き！」

「菜っ葉って野菜のおひたしのことですか？」

「うん、そうとも言っなあ。」

本当は魚も肉も大好きなんで・・・エへへ

後藤 絹さん

夜中、楽飲みでお茶を差し上げている時

「あ、やっぱり夜に飲むお茶は、

とてんおいしいなあ！おおきき！」

高山キクエさん

居室のアジサイを「高山さん、これは誰が
持ってきてくれたんですか?」と聞くと、

「よ・め」

「母の日に持ってきてくれたんですか?」

と聞くと「そう!」と、ニコニコ笑顔でした。

羽田野ミサヲさん

「羽田野さんの長生きの秘訣は何ですか?」

「何じゃろつかなあ。何んも考えんじ来たら、

あつという間に「げん歳になつちよつた。

いつの間にか、なつたんじゃろつか?」

後藤 絹さん

夜中に「死ぬほど甘いもんが食べたい!」

と言う。「困つたわ。今、夜中で何も無いの!」

「明日でいい。死ぬほど食べたいんじゃわ!」

「明日必ず買ってきますからね」

「よんこー・ー・んれんぱんぱんぱんわー!」

渡部キヨコさん

ご主人が毎日欠かさず面会に来られ、
手足のマッサージをしてくれる。

「毎日来てくれるから良いですね」と言う

「うん、うん」と笑顔でうなづく。すると

ご主人が「わしはこれ(奥さん)が心待ち
に「ちよると思つと欠かさねんのです」

(渡部キヨコさんの目に涙・)

高山ヒデ子さん

夜、ベッドで休まれた時の事

「夢で見るのはじいちゃんですか、

それとも娘さんですか?」と聞くと

「む・す・め」と笑って言われる。

波多野ナミコさん

「今日はぜんざいですよ」とお持ちすると、

「これが一番の「ちよる」じゃあわ!」

と笑顔で食べられる。

吉良ユキヨさん

病院受診の時、赤ちゃんを見て

「可愛いなあ・・私も欲しいなあ・・」

「えっ！育てられますか？」と聞くと、

「育てきるうじやねえなあ」

「おっぱいが出らんですよ」と言ったら、

「今はミルクがあるき、育てきるわあ」と・・

子育て中の私にとっては「立派ー」のひと言です。

古庄信子さん

夜間のトイレ介助の時

「ほんと、あんたたち

見ちよったらもどきいわあ」

「もどきいわあ言う意味ですか？」

「可哀想っちゃ言うことじゃわな。」

作業着でん、あげてえいじもあるわ」

「ありがとうございます。気持ちだけいただきます」

後藤澄子さん

「私は体んどじよりも、耳が寒いんじやわ」

と、「寒い時はいつでも言っておきな」

渡邊嘉昭さん

「今夜は眠れないんですか？」

「ご飯が少なえじ、

ひもじいで（お腹が空くの意）眠れん！」

「じゃあ明日の朝ごはんが楽しみですね？」

「釜ん中に残っちゃあるんじやき、

ついじくわりやあいのじ・・」

「いめんなささ」

川邊 充さん

「男より女子（おなご）の方がいいなあ」

「どうしてですか？」

「女子（おなご）の方が楽じゃ」

峯田千代子さん
朝方のトイレ介助の時、

「あんた、ここに何しに来よるんな？」

銭どりに来よるんな？」

「そうですよ。仕事に來ています」

「ああ・・・そうな。学生と思つたわ・・・」

「そんなに私が若く見えます？」

「ありがとうございます！」

後藤澄子さん

大雨注意報の日

「じげえ雨が降るけん、昼よこい（休憩）を

しようえ。あんたどうにも、とこ（床）を

たーくさん作るき、よこいなあえ。

「じげん雨降りん日は、よこつに限るでなあ」

「そうですね。一緒に昼よこいしましょうか」



高野秋子さん

「高野さん、桜を見に行きませんか？」と
離床時に声かけすると、

「はい。よろしくお願いします」と、

うれしそうに言われた。

古庄信子さん

「今日は天気がいいから、

草切りせんといかなあ

(タオルをかぶり、手に手甲っぽい物をつけ、

用意をしている)

「古庄さん、私が鎌を研いでおきますから、

用意ができたら、お願いしますね」

工藤ハツヨさん

いつも「ありがたいです」とおっしゃるので、「あ
りがたいが減つてしまいますよ」と言う

「減ると困るき、今からはじげえ言お

うか・・・アリが鯛ならイモ虫はクジラ」

(工藤さんに座布団一枚！)

峯田千代子さん

「今、何時な?」「十時五分ですよ」

「ひもじい〜! (お腹が空いたの意)

まだ風にならんか?」

「何が食べたいですか?」

「本竹の入っただんご汁が食べてえろ。」

サラッとしたやつじゃねえで、

ちっと粘ったのがいいで!」

「本竹の入っただんご汁、おいしそうですね」

吉良ユキヨさん

中庭の桜の下で、日なたぼっこを終えて、

「また天気の良い日に外の空気を吸いましょうね」と言うのと、

「あ、ありがてえわあ。」

これが何の薬より一番効くんじゃあ」

と笑顔でした。

高原信義さん・ユス子さん夫妻

同室の高原さん夫妻に手を握ってもらおうと、

㊦ 「あんたん手は冷てえなあ・・

どうしちごげえ冷てえんなえ〜?」と、

しばらく信義さんの手をさすっているのと、

信義さんは少し照れながら、

㊦ 「わしん手はいつもごげん感じじゃあ」

と二人でほのぼのしていました。

吉良ユキヨさん・三代チギさん

二人で指をおりながら話していたので、

「二人で何をしているのですか?」と聞くと、

㊦ 「指がしびるるぎ、年を数えよった」

「百から反対に数えたら方が早いですね」

㊦ 「そつじゃなあ。」

そりゃそれ方が早いわな」

㊦ 「本当、そつじゃあ」と

三人で笑いました。

阿南幸丸さん

「阿南さんは良く本を読まれますね」

「他に『する事が無いけんや!』」

「言ってくれたらあんだの仕事もするで!」

峯田千代子さん

(戸外散歩でアジサイを見ている時)

「1本もらつて帰りましょうか?」

「あんだ、そげん事をしたら、」

「怒らるるぎ、しなさんな!」

「はい、すみません」



古庄信子さん

(シート交換時)

「今日は何人でシート交換をしよるの?」

「四〜五人でしています」

「そらや、おまんじゅうでん」

「蒸さんといけんなあ」

川野シズエさん

散髪後、「お盆がいつ来ても良いですね」

「私は盆はボーッとして過す」

と駄じゃれを言う。

峯田千代子さん

「看護婦さん、看護婦さん!」

「峯田さん、私は看護婦じゃないですよ」

「看護婦じゃねえ!」

「よう病人の世話がでくるなあ」

峯田千代子さん

「今日はソーメンをたくさん食べて下さいね」

「ソーメンのじょうは食べれんわ。」

「ご飯も食べてえわ」

「ソーメンとご飯は別腹ですか?」

「食べたら腹ん中は同じじゃわ。」

「見ゆらせんきなあ」

川邊 充さん

「川邊さんは何歳ですか？」

「私じゃ六十六歳じゃー！」

「八十四歳と思えますけれど」

「いや、六十六じゃー！ ばあさん(妻)は

十二歳下じゃ。あん頃はワッしも若かった。

大工も百姓もしよったき、ついち来たんじゃ。

こんめえんで(背が小さい)。

わしごとっちゃ、いとおばあ(妻)じゃ」

阿南幸丸さん

娘さんとの面会での会話

「お前、今日は休みか？」

「うん、今日は休み……じいちゃんは？」

「わしは……年中休みじゃー！」

「そりやそりやなあ」

川邊 充さん

「お釈迦様、ありがとうございます。」

今日の良き日が何事も無く、

無事でありますように」

「毎日こうして、お祈りをして言うのですか？」

「毎日じゃねえ。お参りした時だけじゃ」

安藤コキクさん

「コキクさんて、いい名前ですね」

「あー、いい名前があるもんか！

うちはなあ、いい見えてん、

けっけっけ悪がねじゃったんで！」

高原ユス子さん

「夕べはよく眠ったわあ。」

あげんよう眠れたのは、久しぶりじゃわ。

夜中ん零時半と思ったら、朝ん五時半やった」

「良く眠れてよかったですね」

工藤ハツヨさん

(車いすを一生懸命こいでいるので尋ねると)

「隆子(娘)が帰るから、見送りをせんとー!」

「握手をしてからじゃないと帰らんよ」と娘さん。

握手をすると、「離さんよ!」と工藤さん。

「どうするかなあ」と娘さん。

「大分まで帰るにいい、離さんと悪いわなあ」

工藤ハツヨさん

盆帰省する時に「いっぱいお話しして下さいませ」

「そげえしゃべる事があるじゃろうか」

「工藤さんは無口だから・・・」

「無口は棚に上げて話して来ましよう」

↓盆帰省後・・・何を話してきましたか?」

「いっぱい話すぎて忘れました」



安藤コキクさん

「あいたく!」

「どこが痛いですか?」と聞くと

「歯が痛かった」 「歯は無いようですが・・・」

「そっじゃあ、歯は無かったわ・・・あはは」

羽田野節子さん

「今日は、私の『ふる里訪問』

に行ってきました」

「どんな所が懐かしかったですか?」

「家の建物や全部が懐かしかったです。」

玄関もきれいにしています。

安心しました」「良かったですね」

高原信義さん

「あんなあ、俺はなあ悪がねじゃったんで!」

そっじゃあき、毎日校長室で

勉強しよったんじゃ!」

(そう言う高原さんも校長先生をしていました)

後藤 絹さん

夜中にコールがあり、居室に行くとき・

「今、夢を見よった。子供と人形を
作りよる途中で目が覚めた。」

ああ、ありがたい。「これからお願いします」

三代チギさん

盆帰省から帰った時「自宅はいかがでしたか？」

「仏様にずつとお参りして来ましたか」

ら、

胸がスーッとしました。

(亡くなられている)じいちゃんも、

皆さんにくれぐれも・・

高原信義さん

「もし、今あんた達が

戦争をしようたら、どう思うな？」

「恐ろしい、悲惨なものとは

思うけど、想像がつきません」

「そっじゃろなあ」と言い、

戦時中の貴重なお話をしてくれました。

吉良ユキヨさん

「今日はお盆ですよ」

「そっねえ来るなあ。そげえ言いいよら、

正月もすぐ来るで。ハハハ」

後藤澄子さん

「敬老会に」馳走が出ると言よったけど、

茶碗蒸しと、「げん小せえ」シップに玉子酒

が出ち、いっしょと変わらんかったで・・」

阿南美智子さん

「運動会はいかがでしたか？」

「きつかった」

「お弁当はどうでしたか？」

「おいしかった」



佐藤ミヤコさん

(お腹を触りながら・・・)

「子供が出来た」

「えっ？ 男と女のどちらですか？」

「こんめえ(小さいの意)男の子じゃ」

「それは頑張らんといけんですね」

「うん」と笑顔でうなずく。



川邊 充さん

散歩の時に手を握ると、

「あんたん手はぬきいなあ。」

何かいい事あったんか？」

「川邊さんはいい事ありましたか？」

「おぼあ(奥さんの事)が来ればいいがなあち、

思いよったら、あんたに会った。ははは」

甲斐ヒデコさん

「大石はそろそろ稲刈りですかね？」

「まあ、早ええわー！」

下田ナツさん

「下田さんのおうちはお米を作っていますか？」

「うん」とうなずく。「やっぱり自分方のご飯が

一番おいしいですか？」

「うん(任運荘)のが一番おいしい。」

アスキご飯がいい」「お赤飯のことですか？」

「うん」とうなずく。

甲斐ヒデコさん

夜中に目を大きく開けていたので、「甲斐さん、

何か夢を見たんじゃないですか？」と聞くと、

「そつで・・・怖い夢を見よつた・・・」

川野シズエさん

病院受診で何度も外へ出て、

「今日は暑いなあ」と・・・その後

「どげんどげん言うてん、どーにも

ならんけどな」 おっしやる通りです。

下田ナツさん

「私でん、でんいじじなら、なあんでんしちやるでー!」その言葉に思わず涙が出そうになりました...

佐藤ミヤコさん

佐藤さんの口腔ケアをしていると、

「しょんべん(小便)くせえ」とおっしゃる。

「お薬のにおいがしますか?」と聞くと、

「しょんべん!」と答えた

三代チギさん

外でおやつを食べた時に、

「遠足みたいやなあ」と喜ばれる。

川邊 充さん

ショートステイで帰られる時に、

「きげんよう」と職員が言うと、

「また会いましょう!」と言って帰られた。

高野秋子さん

「高野さん、おはようございます」と挨拶をする時、「よう、おつひだわりました!」と言ってくれた。

後藤澄子さん

(下剤投与で排便予定の日)

「いじじが出ちよらんぞ!」

「なぜ排便の日と分かったんですか?」

「それはな、昨日お〇らが

プンプン出よったけんよ!」

阿南美智子さん

(ホールで利用者に下肢のマッサージ器械をしていると、阿南さんがジーツと見つめていて、ひと言)

「いいなあ」と言われたので、次にして

さし上げ、終わった後で感想を聞くと、

「気持ちよかったです」と満足そうでした。

吉良ユキヨさん

顔にクリームをつけていたので、「お肌のお手入れですか？」と聞くと、「そうじゃあ〜」と。

「口紅を塗りましょうか？」

「口紅とか塗ったことねえんで。昔は仕事ばかりで・・馬鹿な」と働きよった

「今度お化粧をしますか？」「そうじゃあ〜」

「もとがいいからきれいでしょうね」と言うと、

「そうで。もとがいいきなあ。きれいで！」

「アハハハ」と大声で笑いました。

下田ナツさん

離床時に二人介助して、かけ声をかけると、

「私や重てえじゃろ?」「重てえなあ?」と

聞くので、「そんなことないですよ」と返答すると、

「本当な?」と言われました。

合澤右八さん

「あいてえ〜!」と言うので、「誰に会いたいですか?」と聞くと、「おかん!」と言う。

古庄信子さん

彼岸花を見て、

「むじあつてん分かるわなあ」

と言う。確かによく目立ちます。

後藤澄子さん

「うちん方はお米を4町作っちゃった」

「お米の他には何か作ってましたか？」

「野菜も作っちゃったよ。」

自分方である分だけとって、

残りはAコープに卸しよったんで」

吉良ユキヨさん

朝食の時に久しぶりにメガネをかけているので、

「今日は何か頑張るんですか?」と聞くと、

「そうじゃあ〜。『はん食べ』頑張ろう!」

と言われた。

阿南美智子さん

喫茶の時に、大きな饅頭をほおぼっている
阿南さんに、「おいしいですか？」と聞くと、

「あゝ、おいしい〜」

阿南美智子さん

運動会の練習で風船割りをしたが、なかなか
割れずに、手を添えてやっと割れた時、

「やっど、割れた〜」と目に涙…

川野シズエさん

運動会に張り切る川野さん。

回診に来られた先生にひと言…

「先生もいっしょにとほごえー!」

羽田野節子さん

「運動会はいかがでしたか？」

「あゝ良かったあ。うちが一番になったき」

「赤組は優勝でしたね。おめでと〜(ぎ)います」

後藤澄子さん

赤組応援団長だった後藤さんに感想を聞くと、

「赤組が優勝したんで!」とうれしそう。

「芸を見るのもいいけど、みんなが同じ服
を着て、まゝ、見るがなあつたで!

運動会も終わったし、今度は用作公園じ

ゃあな」次は紅葉見物ですね」

川野シズエさん

「運動会はいかがでしたか？」と聞くと、

「良かったで! うちん組ん赤が勝ったきな!

うちは今までもべんも優勝したんで!」

「川野さんと一緒の組になったら、勝てますね」

「そつちゃ、そつちゃー!」

後藤澄子さん

昼食後に居室に戻り、

ベッドに日が当たっているのを見て、

「お日さまが待っちゃっくくれたわ」

児玉才元さん

介助時に娘さんと間違えたのか、

「もう帰るんな？ まあ居っちゃよきよ」

と言うので、両手をとり横に振ると、

「そつな。まあ居っちゃよらるるんな」

波多野ナミロさん

夕食後、同室の人とベッドに上がるのを待つて

いた時、「そんなを先に上げちゃりよ」

と、優しい言葉をかけてくれました。

後藤澄子さん

「洗濯物はするほどあるじゃろう？」

お風呂ん時、とっごとっごと

投げ込みようけんなあ

足立富加さん

ラジオ体操をホールでしていた時、体操をしている職員に向かって、「うまい、うまい」

自分の手は全然動かしてませんでした・・・

峯田千代子さん

「鏡をとって〜」と言うので渡すと、ジーンと

見ているので、「どうしたんですか？」と聞くと、

「ほおたんがはれちよると思うち見たん

じゃけど、シワんじょうじやった・・・」

川野シズエさん

「外国ん料理を食べたんで！」

「何を食べたんですか？」

「みんな「ゴリラ」、「ゴリラ」

言いよったけん、「ゴリラかと思つたら、

本当はドリアち言つんと！」

「味はいかがでした？」

「おいしい言うつ人もおったけんけど、

うちはあんまり好きじゃねえ。

食べなれん味じゃけんなあ」

阿南幸丸さん

「もう晩メシ食べたんな?」

「家に帰って食べるんですよ」

「わしのを少し残しちゃら良かった。

すまん、すまん」

渡邊嘉昭さん

「今日はあんしが来たんな?」

「あんし?」 「坂本(寮母)さんや!」

「上を向いてあぐる(ごうぐ)と歌うと

「そりゃあ坂本九じゃ、はははは」

渡邊キヌエさん

夕食後、「あんたも一緒に休もうえ」

「まだ食事の後片付けがあるんですよ」

「片付けは明日すりゃあいい。」

明日は明日の風が吹くや!」

吉良ユキヨさん

「はんをきれいに食べていますねえ」

「やええ〜こつちや作らんき、

美し食べんと申し訳ねえわえ〜」

工藤ハツヨさん

「退院おめでとごうございます。」

「私の名前を憶えていますか?」

「はだのさん・・・下の名前は何じゃったかな?」

「ひろみです」

「せまいじゃなくて、ひろいんじゃなく。ハハハ」

高原信義さん

「わしが言うのはおかしいけんぞ、

家内(妻)は本当に美しかったんで」

と、寂しそうに言われました。

(数ヶ月前に奥様を亡くされました)



下田ナツさん
着替えをしている時、

「じはんでん、食べち行きよ。」

「今なあ、年寄のんばあさん三人に、
追いかけるの夢を見よった。」

古庄信子さん

「あんたは(寮母のこと)私にとって

お姉さんでもあり、お母さんでも

あるわなあ。ほんとうそう思うわあ」

「ありがとうございます。」

「これからもよろしくお願いします」

足立富加さん

「調子はどうですか?」と尋ねると、いつもは

「えっ!」「いいです!」と言われるが、今日は

「たいへん良いです」と、笑顔でした。

安藤コキクさん

「調子はどうですか?」と聞いても返事が
ないので、「良いですか?悪いですか?」

と聞くと、「言えません」

下田ナツさん

「おみ足が見えてますよ」の問いかけに

「えっ! おみやげえ?」

下田ヨシエさん

夜間時に訪室すると

「あんたも一緒に休もうえ!」

「交代で休んでいるので、大丈夫ですよ」と言う

「そやけど、私ん子どもんことある。」

「()」一緒に休みなあ」

下田ヨシエさん

就寝時に、

「あんたも一緒じ、じぎい寝なあ」

「二人は寂しいですか？」「寂しい」とポツリ：

後藤澄子さん

「子供さんは何人ですか？」

「ひとりよ。六十八年間いっしょに」

「おったけど、ひとりしかできなかった」

「長くいつしよにいる秘訣は何ですか？」

「ぶたりとも働きよったから・・・」

「一回もケンカした事がないんよ」

吉良ユキヨさん

夜間時、

「今、私は書き方をしよる夢を見よった。

ハネのところができるなあ・・・と思ひよっ

たら、シッコに行きようなっただんじやわ」

佐藤ミヤコさん

居室を訪ねると

「ねえちゃん、今日は何じよびあなあ。」

「お風呂のお誘いに来たんですが、

いかがでしょう？」

「ほー、それはいっじよびあなあ」

戸次 榮さん

「戸次さん、歳はいくつになりましたか？」

「そっじやなあ、あんたより」

「ひとつかふたつ上じやなあ・・・」

(寮母四十四歳・・・ちよつとがっかり・・・)

渡邊嘉昭さん

散髪後、理容師に、「ありがと、

おおきに、来月もまた頼むな！」

高橋保夫さん

「稲刈りが始まったら、

帰らんでいいですか？」

「ううん・・・」と首を横にふる。



安藤コキクさん

食事中、牛を飼っていた話になる。

「安藤さんも牛を飼っていたんですか？」

「うん、いっちゃよ、こうちよった」

「名前は何と言っていたんですか？」

「・・・モス・・・」 「ワモスですか？」

「ちがう、ワモスち、つけたんじゅあー！」

「今どきの名前だったんですね・・・」

渡邊キヌエさん

入浴時、服を脱ぎながら・・・

「二〜三人分、しゃべらないかんけん、

ちよっとお茶をくれなあ」

後藤 絹さん

「私はなあ、昔、美人やったんで。

今は鏡がねえき、どげん顔に

なっちよるか分からんけんど・・・」

「今でもきれいですよ！」

「そうな、ひっぱりだこやったんで・・・

焼き餅ち言うのがあるやろ。

あれは私が作り始めたんで」

工藤ハツヨさん

昼食後に、「おどまぼんぎりぼん」と、

小さな声で歌っていたので

「子供さんが小さい時は、歌ってあげたんですか？」

「あんなあ・・・子供が8人もおると、

歌う暇なんかねえんで。

じゃけんど子供ちゃあ、ありがたいなあ」

赤嶺ヒデさん

「お正月も「じじい」おらごちやめんめんっ。」

「は、ずいっと居てくださるね」

工藤ハツヨさん

久しぶりに福井と別府の娘さんが面会に来られ、外出をする。それから帰荘して握手をするがなかなか離そうとしない。そこで工藤さんは

「逢つてうれしや別れのひらね」

逢つて別れがなけりやよい」と詠う。

別府の娘さん曰く、昔の歌みたいで……

昔はもう少し節がついてたんよ」と。

羽田野シヨシさん

(誕生日プレゼントの花を見て)

「きのうなあ、なんかよう

分からんけんど、もろうた」

「羽田野さんは何歳になりましたか？」

「もう、二十歳！」と冗談を言われる。

川野シズエさん

(目薬をさしていた川野さんを見て、他の利用者が)

「あら、あんた目が悪いんな？」

「わりい、あんたが十八歳に見ゆるわ(笑)」

足立富加さん

新しい毛布を着た夜、

「じりやあ、ぬきいなあ(暖かいの意)」

佐藤ミヤコさん

夜間帯に、「姉ちゃん、たこでん(高くても)

お医者に行かな悪いわなあ……」

「どこか痛いですか？」

「頭が痛えことある……」

廣瀬ヒサエさん

「廣瀬さん、今晩は眠れないみたいですね？」

「年寄りやけん、眠らんのやわ、ハハハ」

工藤ハツヨさん

介助の後で、「これでよろしいですか？」と聞くと、

「けっけっけです・・・」そして、

「けっけっけ毛だらけ 猫灰だらけ ねずみの

き〇た〇 ススだらけ」と言う。

「私は『猫灰だらけ』までしか知りませんでした。

ねずみの 〇ん〇ま ススだらけは知りませんでした。

た。本当かなあ？」

「見たっつねえけや、

そっじゃろっ・・・ハハハ」

川野シズエさん

理学療法士の吉田さんが川野さんにリハビリをし

た後、「今日来ちくれたことを、それに書いて

ちよっちくれなあ」と面会簿を指差す。面会

ではないですけど、うれしかったんだと思います。

吉良ユキヨさん

清拭をしている時、

「おおきに！ っげんごと

誰がしちくるもんか」

羽田野ミヨシさん

夜間にお茶を飲んだ後、「すみません。

っけっけ泊まらっちもろっち

「いいですよ。ゆっくり寝て下さいね」

渡邊キヌエさん

席まで誘導し、立った状態で職員のお尻を触り、

「どうでしたか？」と他の職員が聞くと、

「フワフワちゅる」とひと言。



佐藤ミヤコさん

夜間、目を開けていたので、「眠れませんか？」と聞くと、「夜、起きがちよつち、風間に寝らな」

「夜に眠って長生きして下さいね」と言うと、

「そうじゃあなの。長生きせなの」

工藤ハツヨさん

8人の子どもがいらつしやる工藤さん。

「私も3人生んだんですよ」と言うと、

「3人は数のうちに入らんよ」

「じゃあ何人生んだら数に入りますか？」

「そうじゃあなあ・8〜10人じゃわな」

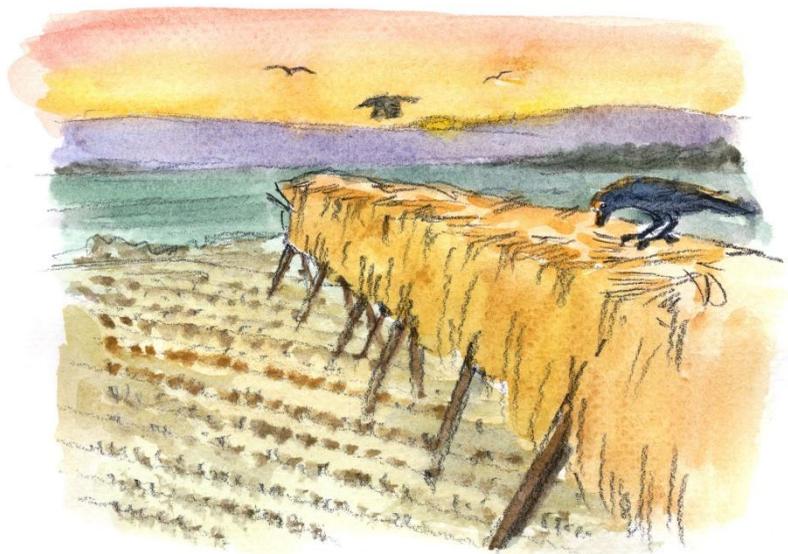
「あと5人は生めません・・・」

足立富加さん

(朝の髭剃り後)

「足立さん、髭はちゃんと剃れてますか？」

「ああ、上等やー!」



後藤澄子さん

「今日ん、おやつのお酒は、とてん(とても)おいしかった。」

昨日んジュースはちよつと、おいしなかった」

「お酒は好きですか？」

「ビールやら酒は好かんけど、

甘酒は大好きじゃあ」

工藤ハツヨさん

「九十歳を過ぎて、頑張つてす(こ)いですね」

「あんなあ、うちはまだまだ、頑張りが足りんのよ。じゃあきい、「これからもっと頑張ろうと思つちよるんよ。若い時ん頑張りはない、頑張つた内に入らんのよ」

「本当に頭が下がる思いです」

佐藤ミヤコさん

「お姉ちゃん、若宮さまち知つちよるな？」

「朝地町の若宮のことですか？」

「そつじゃあ。うち方はあつこん近所で」

甲斐ヒデコさん

「こんには」と挨拶をすると無言だったので、

「まいど！」と声かけると

「毎度お世話になります」と、

小さな声で答えてくれました。

阿南美智子さん

(玄関前で花をいっしよに見た時)

「沈丁花、知つちよる」「いい香りがしますね」

「いい香りがする・・・」

と、しっかりと言われました。

三代チギさん

戸外散歩中・・・「こげえ、お天気がいいとぬくいから、うちをすつと(こ)におらしてくれんやろか。生きかえる(こ)たるから・・・」

(その後、二十分ほど日光浴をしました)

波多野ナミコさん

玄関のアロエの花を見て…

「うちはアロエは知っちゃるけど、花は初めて見たわあ。こげん花が咲くんじゃなあ」

と、しみじみと花を見つめていました。

上野ハツさん

(最近、入れ歯を作り直す)

「入れ歯の具合はいかがですか？」

「自分の歯じゃねえけん、

なかなか上手いこといかん。

他人(ひと)ん歯じゃけんなあ」

羽田野シヨシさん

夕食時に居室の中から、

廊下を通る寮母を見て…

「じいじは、なんぼでん人がおるまいる、食堂をしたらはゆるるべー！」

原敏一さん

「孫の隼人くん(五ヶ月)が『じいちゃん』って、言ってくれるようになったら、

またかわいいですねえ」

「そりゃあ、まだ、もういっとうき

せ(せ)ゃあ、無理じゃろうなあ」

渡邊嘉昭さん

「あと十年もすれば、じいじはじぶるわあー！」

「ど(ど)うしてですか？」

「寮母さんが、みんな年よるけん、

みんな年寄りになっち、

俺とおん世話がでけんわあー！」

「大丈夫ですよ。

若い寮母さんが、たくさんいますよ」

「じいじ、わけえ寮母さんがおるんな？」(絶句…)

吉良ユキヨさん

(レクで歌や体操の後)

「いろいろ難しいことあるよ、

寮母さんどうの、ちよこっとした

踊りやらの方が、おもしろいわ。

おかげじ今晚は、よく眠るかもしれん」

赤嶺ヒデさん

「今日のおやつはきんとんですよ」

「昔は「マ豆腐」を作ってた。

おいしかったんで」

工藤ハツヨさん

京都に行った事を、回診に来た先生に話し、

「来年も行きたいです」

相澤秀子さん

朝方の体交の時、「今日は忙しい」と一言。

渡邊嘉昭さん

「渡邊さんはどこか旅行に

行ったことがありますか？」

「中学ん時に熊本に修学旅行じ、

2泊3日で行ったわあ。阿蘇山に

登ってどっかの旅館に泊まった」

赤嶺ヒデさん

「あんなあ、赤嶺はなあ、

難しい人で」 「はい、わかりました……」

赤嶺ヒデさん

戸外散歩をし、梅の花を見ながら、

「また連れちぎてくれんやろか？」

「美しいなあ……今日はありがとう」

とつても素敵な笑顔でした。



高山キクエさん

散歩中、「高山さん、大根の花が咲いていますよ」と指差すと、「あゝ美しい・・・。」と

しばらく見つめていました。

川邊 充さん

「今日の寒い一日が無事に終わります

ようじょう、ようかよろしくお願ひします」

とお祈りをしていました。「寒いのは嫌ですね」

後藤澄子さん

「後藤さん、散歩に行きますが

気分はいかがですか？」

「散歩に行かざるなら、悪いでん、

いいち言つてええ。ちゆうてん

(と言っても)本当は気分がいいんで」

と、戸外の梅の花を見ながら、

「もう梅の花が咲いたんな。早ええなあ」

工藤ハツヨさん

「今日は雨降りで、風も強いですよ」と言うのと、「かしこみ かしこみ もおーすぞ、

今日は外に出られんな」と言う。

安藤コキクさん

「足を曲げて下さいね」とお願いすると、曲げてくれたので、「安藤さん、うまいですねえ」と言うのと、「うまいことなんかねえわ」

「どうしてですか？」と聞くと、

「もうおばあさんになったまい、ハハハ」

足立ヒサヨさん

チューリップ見物の時、目を潤ませながら、「いい花じゃなあ。きれいじゃなあ」チューリップの花時計をジッと見ながら、

「変わったもんじゃなあ。」

は、まあ、よう咲いちよん」

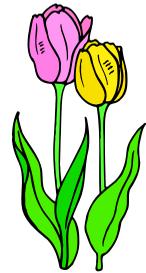
阿多テル子さん

チューリップ見物の時、

「よう、こんなにできたもんじゃ！」

「こんなに咲いちよんのは他にはないよ」

「時計のような形をしちよんのもある」



赤嶺ヒデさん

チューリップ見物の時、

一面のチューリップを見て・・・

「夢じようある・・・」

と、目を輝かせて言われた。

川野シズエさん

停電があった時のこと・・・

「私の車も停電じゃあ、動かん！」

「川野さんの普通の車いすですよ(笑)」

上野ハツさん

入浴の時、

「あんたたちみたいなきい人が、ハツラツと

しちよるのを見ると、元気をもらっわあ」

工藤ハツヨさん

往診の時、先生から、「眠らんじ、相撲でも見たら

どうですか？」と言われたと、

「相撲はあんまりとらんき、見ません」

衛藤キヨさんと吉良ユキヨさんの会話

④・・・「ばあちゃん、あんたは家はどこな？」

④・・・「うちは、竹田ん入田ちゆう所じゃわ」

④・・・「うちは、緒方ん天神じゃわ」

④・・・「入田なんち言いかくると、いことう

(帰るの意)なるなあ・・・ははは

④・・・「ほんどじゃなあ。じゃけんど、いにて

え

古庄信子さん

自分の靴を洗濯したい、と古庄さん：

「昔は原尻の滝で、洗濯をしていたんですか？」

「昔は子どものおしめを、

よく洗いにいきよったわ」

羽田野シヨシさん

往診時、先生から、「羽田野さんは昔から

薬が好きで、いっぱい飲みよった。

今は少なくなつた方やわ」と言われると、

「先生が、くるるまに、

仕方ねえ飲みよつたんで」と言った。

上野ハツさん

「昨日は、お祭り(五月祭)の旗を見ただけで

ワクワクして、始まってもドキドキやった。

吉四六(きよちよむ)さんが

手を握ってくれて、嬉しかった」

渡邊キヌエさん

起床時、「胸が痛くて起きれん」と言うので、

車いすを用意すると、「こげな姿を姑に見

らるると怒るるなあ。バチがあたる

わあ」と言い、洗顔にお連れすると、

「こんなあつたかいお湯を用意しても

らつて、ありがたい」と言ってくれる。

三代ハツヨさん

「あんたどくも、やおねえ(大変の意)なあ」

「そんなことないですよ。」

三代さんは任運荘の生活に慣れましたか？」

「はい、慣れました。寮母さんが、

みんな優しくしてくれてるけん、うれし」

安藤コキクさん

朝食の食事介助後、エプロンを引っ張って一言

「まあ、おうちよめい」

阿南美智子さん

「ご主人の面会の後に、「阿南さんはご主人のことが大好きなんですね？」と聞くと

「いいちゃん、好き・・・」と笑顔で言われた。

川野シズエさん

五月祭の時、息子さんと食事をしながら、

「息子が二げえ歳をとってん、やっぱ、むげねえ(可哀想の意)んじゃわあ・・・」

「いつまでも、こんなに心配されて、

ありがたいねえ」と息子さん。

工藤幸子さん

「これ(赤いクッション)は、私には

若すぎるけん、あんたが使いなあ」

「工藤さん、似合ってますよ」

「そうかなあ・・・あしがとう」

原 敏一さん

「原さんは、どこの出身ですか？」

「わいは兵庫の明石出身じゃ。二げえやうち(手ぶら)で、鯛とか釣りよったんで」

上野ハツさん&川野シズエさん

廊下で二人並び、『おとずれ』を川野さんに

見せながら、

①「川野さん、二二二載っちゃあやう。」

あんたまだ90にならんのですなあ」

②顔をほころばせ、「ほんとなあ」

と嬉しそうで、微笑ましい光景でした。

足立富加さん

「草深野の方も田植えが始まりますよ」

「ほう、そやせわしからうなあ・・・」

羽田野節子さん

私の顔を見るなり、

「あんたん名前が「じ」まで出ちよう

やけんじ、思いだせん・・「めんね

「い」ですよ。私の名前は工藤ですよ」

渡邊サカエさん

夕方、洗濯物を配っていた時、

「おった、おった」と、

ハンカチが落ちた事を教えてくれました。

工藤幸子さん

枕をお腹に抱えて、手招きをしている。

「うちはタバ男ん子がでけたんよ」

「それはお疲れさまでした。」

名前は決めたんですか？

「それがまだなんよ・・・。」

「あんたが名前をつけくれんかな？」



渡邊サカエさん

腕や肩に、かゆみ止めの軟膏を塗布すると、

「ありがとう。お金はいいんな。」

倉原シノブさん

「倉原さん、9月が誕生日でしたね」の問いに、

「うん」とうなずく。「94歳・・百歳まで頑張

りましょう」と言うと、「うん」とはつきり答え

てくれました。

上野ハツさん

「寮母さんは、いつ見ても

走りまわって忙しいなあ・・

ほんとうすまんち思うつよ」

「騒がしくてすみません」

工藤幸子さん

「工藤さん、お勉強ができましたか？」

「あまりよくできませぬ！」とひと言。

工藤ハツヨさん

「工藤さん、トイレに行きませんか？」と声をかける。

「せっかく来ちもろうた！」

「悪いけんど、このまま寝ちよろ！」

「分かりました。おやすみなさ！」

「すまんなあ」

渡邊キヌエさん

昼食の下膳の時、「お腹いっぱいになりましたか？」

「あ、腹が破るぞ」とある。

「食ベ物を残すともったいねえ〜きなく。」

「ちせうさんでした」

「はい、ちせうさんまでした」

上野ハツさん

「毎晩、毎晩、夜にベッドで休む時は、両手を合わせて『今日も全員の寮母さん、ありがとう』といいました。私はそう言って休むと落ち着いて眠れるんで！」

「こちらこそ拝みます(全寮母)」

戸次榮さん

夜勤の時に訪室すると、

「まあ、寄っちいかな」と声をかけてくれる。

「仕事があるので、また後で来ますね」と言う。

「あ、仕事が終わったら、寄っちきなあ」

と言われました。

阿南美智子さん

「今日はお彼岸でおはぎが出ますよ」

「食べる」とはつきり答えてくれました。

夕食で美味しそうに食べました。

児玉ハチヨさん

ご主人の面会中に、「今日はお彼岸で夕食におはぎが出ますよ。食べましょうね？」

「ひゃっぴいぶらじや・・・」

「ご主人といつしよに食べますか？」

「じいちゃんにも、あげちくれなあ」

優しい奥さんです。

阿南幸丸さん

五千石祭に行った時、「阿南さん、荒神と

柴引きをしましょうよ」と声をかけると、

「負ける・・・引っぱるわ」

古庄信子さん

運動会の練習をしている職員を見て、

「明日、県体か、何かあるんですか？」

合澤右八さん

「合澤さん、今日は十月一日です。何の日か分かりますか？」「うん」やっ」と。

「誰かの誕生日ですよ」と言うと、

「おかあ」 「今日は合澤さんの誕生日で

すよ。おめでとうございます」

「あゝっ」と笑顔。「元気でいきましょうね」

「あっとっ(ありがとう)」とはつきりした声

で答えてくれました。

上野ハツさん

町内の図書館に行った上野さんに、

感想を尋ねると、

「私は初めて行きました。緒方にあんな

立派な図書館があるとは・・・」

東京の図書館に行ったことありました」

三代ハツヨさん

「運動会お疲れ様でした。」

「とてん、にぎおつたなあ」

「三代さんは小さい頃から

「¹等ばかりだったでしょうね？」

「こんめえ時はそうじゃったけど、

こげえ年をとったら、ヒリンじょうじゃあ」

上野ハツさん

運動会のアトラクションで

プラカードを出す役だった上野さん。

「寮母さんの踊りがものすこかった

もんじゃから、役目を忘れちゃった。

「メン、メン」



上野ハツさん

運動会の職員のアトラクションを見て、

「本職の踊り子かと思ったら、あれは

ここの職員さんが踊ったち聞きました。

はあ、みんな上手かったですなあ。

みいさんの手をなでちゃりてえくらい

な、気持ちになりましたわあ・ほん

ですよ！」

②

「えっ？ あの男の職員さんも踊ったん

ですな？ あん大人しい人があげなこと

でくるなんかなあ。」

びっくりする事が多いですなあ。」

「踊りが上手かったと本人に言っただげて下さい」

「いやあ、あん大人しい人に、

そげな事は言えんですわ！」

衛藤キヨさん

「運動会はいかがでしたか？」

「みんな、ようでけた！」

「疲れなかつたですか？」

「うちどくは疲れんけんぞ、

あんたどくは何やらかんやらで

疲れたろうなあ？」

弁当もおいしかつたわあ」

吉良ユキヨさん

なごみ塾に來た保育園児の

歌や踊りを見た感想を聞くと、

「良かったで、涙が出た、

子どもが見えんことなつた」

安藤コキクさん

頭が枕から落ちていたので、

「安藤さん、頭が落ちてますよ・・・」と言うと、

「あ、あ」と言われ、二人して笑う。

三代ハツヨさん

「三代さんは、速そうな足をしてますね。

走るのが速かつたんでしようね。」と言うと

「うちは速かつたんで。いつでん一等じゃつた。

「げえあつてん、悪がねじゃつたんで！」

「悪がねの様に無いですよ」と言うのと、

寮母をつつきながら笑う。

戸次榮さん

「毎日暑いですね。戸次さんは

夏と冬とでは、どつちが好きですか？」

「わしは夏より、冬ん方がいい・・・」

「あちいのは、くらえきれんきなあ」

「本当にそうですね」

渡邊キヌエさん

「渡邊さんは、いくつになりましたか？」と聞くと、

「もう、忘れた・・・。」と・・・

「94歳ですよ」と教えると、

「もう歳は、とらんでいいんじゃないかと、

「こん人たちがとらせるんですわ」と、

周りにいた職員を見ながら言われた。

上野ハツさん

雑誌に載っていたテン（イタチ科の動物）を指差し、

「昔、主人がテンを捕ってきよったですよ。

えり巻きになるから、高く売れたんですよ。

私も持ちよかったですけど、

本当に暖かかったですわ〜」

「クマとかは、捕りよったですか？」

「イノシシとかシカは捕りよったですけど・・・、

クマは殺すより、こっちが先に殺されますわなあ」



阿南幸丸さん

散歩好きの阿南さんが、玄関の方を向いていたの

で、「お散歩に行かれますか？」と尋ねると、

「忙しいんじやあ・・・。」と云うので、

「何が忙しいんですか？」と聞くと、

ニコニコ笑ったままで、答えてもらえませんでした。

西ヲシンさん

「西さんには、子どもさんが

何人いますか？」

「4人おる・・・」

加代子に、久美子に、

三代子に、まり子・・・。

加代子は家におる。

久美子は三重におる。

三代子は宮崎におる。

まり子は京都におるんで」

下田ヨシエさん

起床した時、私の腕をつかみ、

「あんた、肥えちよんなあ・・・」

と2回続けて言う・・・

「下田さんに分けてあげたいわあ」

「本当じゃあなあ。」

でも本当に肥えちよんわあ」

「痩せんといけませんねえ・・・」

「痩せんでいいわあ。」

肥えちよってんいいわあ」と

何度も言われ、複雑な気持ちになった寮母さん。

児玉ハチヨさん

子どもが二人写っている写真を見て、

「お孫さんですか？」と聞く

「そう。おじいじとおばあじいぢ」

阿南幸丸さん

今年の運動会のDVDを見ていた時、

ちようど阿南さんが映り、

「あつ、今わしがおったろ？」

「阿南さんがいましたね！」

「男前じゃなあ、ハハハ」

工藤ハツヨさん

久しぶりに『金色夜叉』の歌を歌っていた工藤さんに、「久しぶりに聞きましたよ」と言う

「味噌が腐らないけどなあ・・・」

「反対に明日の味噌汁は、おいしいかもしれないですよ」「アハハハ、そうじゃるか」と笑顔。

廣瀬ヒサエさん

「久土知の方も稲刈りが始まりましたよ」

と伝えると、「もう、熟れたんなあ」

とはつきり答えてくれました。

吉良ユキヨさん

「今日はレタス巻きですよ。自分で巻いたのと

どっちがおいしいですか？」

「私ん巻いたの方がおいしいでー!」

「じゃあ、今度巻いて下さいね」

「いっでー! 巻いちゅんべー!」

阿南幸丸さん

雑炊だった阿南さんに、こっそり巻き寿司をさし上げました。食べ終わって帰って来る阿南さんに、「どうでした?」と聞くと、

手でOKサインを作り、「美味しかった」と。

「また次もこっそりあげますね」と言うと、

「よろしゅう!」と笑顔でした。

川野シズエさん

「もっ、お迎えに来てん(あの世に:)

いいんじゃけんど・・」と川野さん。

「向こうの人がいつて言いましたか?」

「まだエンマ様に会いださな?」

「じゃあ、お迎えはまだですね」と言うと、

「そっじゃあなあ〜」

西ヲシンさん

広報紙のおとずれに西さんが載っていることを伝え、文を読んであげると喜び、

「これ、持ち帰っていいんな?」と

車イスに乗せて、ホールに戻って行きました。

下田ヨシエさん

昼食をお持ちし、「今日はうづんどですよ」と置くと「何え? 運動会え?」と言われ、

思わず笑うと下田さんも一緒に笑いました。

工藤ハツヨさん

朝食後、テーブルを下を向いて寝ていたようなので、「夕べは眠れなかったですか?」と聞くと、

「眠れなかった・・・」「そうなんですか?」

「私がそげえー言いつつ、」

本当のことあるやろ。ハハハ・・・」

赤嶺ヒデさん

「焼いもが食べたい・・・」と赤嶺さん。

「おやつに頼んでみますね」

翌日厨房の配慮で、おやつに焼いもを準備。

差し上げると、

「ありがとうございます。おいしー」

と喜ばれました。

原 敏一さん

「原さん、今夜は眠れませんか?」と聞くと

「いや、眠る。あんたも」

横「おきち眠りなあ・・・」

合澤右八さん

「まんま、こ〜ん」と言うので、

「こはんですか?お母さんですか?」と

尋ねると、「おつか〜ん」とはつきり答える。

「今度会いに帰りましょうね」と言うつと、

「かえる〜」と笑顔で答えました。

後藤 絹さん

「ミルクのようなの、おいしかった」

「バナナジュースですよ」と教えると、

「まだねえんかなあ・・・おいしかった」

甘いものが好きな後藤さんです。

安藤コキクさん

「安藤さんは徳田(出身地区)で一番の

美人だったんじゃないですか?」

「そげんことあねえで。四番目じゃった」

「徳田は美人揃いだったんですね」

川野シズエさん

名古屋に住まれている娘さんが、

5年ぶりに面会に来られる。

「どげえしゅうか。ヒデ子が会いに来ちくれた。

うちも歳をとったけど、アしも歳をとった…。

初めは誰か分からなかった。

『母ちゃん』と呼ばれち涙が出た…。

「会える日をずっと夢見てたから、良かったですね」

「あ、うげん嬉しい事はねえ」

娘さんも涙を流され、「丈夫に産んでくれた

おかげで、私も元気にしてるから…」と、

川野さんに感謝していました。

足立ヒサヨさん

「足立さん、大野町に帰ってみたいですねえ？」

「そっじゃあなあ…。」久しぶりに、

足立さんの声が聞かれました。

阿南幸丸さん

「明日は阿南さんの

好きなお風呂がありますね」

「そっじゃあ。

風呂と食うことが楽しみじやあ。

食っちゃ寝、食っちゃ寝じ、

牛といっしょじや。ハハハ」

渡邊キヌエさん

夜中トイレに起きた時、

「魚を釣った夢を見た…。

でも目覚めたら、のうなっちよった。

アジじゃった」

「では今から休んで、夢の続きを見て下さいね」

「ウフフフ…」と笑顔になる。



上野ハツさん

「私はですな、阿南先生（囑託医）のおじい様、お父様、阿南先生、それから娘さん（歯科医）の四代に診てもらったんですよ」

後藤 絹さん

「お寿司は、何が好きですか？」

「巻き寿司・・・」

「手先が器用だから、巻くのが上手でしょうね」

「上手かったよ」

「今でも巻けますか？」

「巻きますよ」

「今度、食べさせて下さいね」

川野シズエさん

「用事がある所まで、手伝いましょう」と車イスを押すと、

「毎日用事があるといいなあ・・・」

阿南幸丸さん

アフリカンサファリ見物の数日後・・・

「屁も作れん夢を見た・・・」

ライオンを連れ帰ったら、

隣りん犬が遊びに来ち、

ライオンとは知らずに来たき、

たまがっち逃げた夢を見た。

あのライオンは可愛かったな」

阿南幸丸さん

「ライオンに追いかけれんかったですか？」

「痩せちようき・・・」

「じゃあ、私は食べられますかね？」

「うん！」「私が食べられたらどうなる？」

「なくなる・・・」

「エー、助けにきてくれないんですか？」

「助けきるもんか・・・」「確かに・・・」



渡部キヨロさん

「渡部さん、息子さんがテレビを
持って来てくれて、良かったですねえ。」

『毎日楽しんで見えています』と

手紙を書いておきましたよ」と言うのと

「うん、うん」と、うなずき涙ぐむ。

川野シズエさん

「川野さん、トイレに行きましょう」と声をかけると、「少し(車イスを)押しちくねなあ」

「じゃあ、少しですね」

「そげえ言わんじ、仲良ししようえ(笑)」

押した後、「ありがとな」

「では帰りは頑張って下さいね」

「あ、頑張るわあー!」

渡邊キヌエさん

大晦日に玉子酒を飲んでひと言

「お酒は酔ったが、心は酔わぬ……」



首藤栞生さん

任運荘の廊下を散歩しながら、

「ここは書画を多く掛けていて、散歩が楽しい。」

『任運騰々』の額はとても良い。玄関は主の顔じゃ

阿部マサラさん

「あんたもここに寝らんのか?」「まだ仕事が残っているので、先にお休みください」と言うのと、

「あ、まだ仕事があるんな?」

大変やなあ〜

三代ハツヨさん

「おはようございます」と声をかけると、

「長男ができた!」と……

「えっ?お孫さんですか?」と聞くと、

「うんにゃ、長男じゃ 長男!」

「三代さんの長男さんは大きいですよね?」

「いんねー! うんにゃ うんにゃ」

川野シズエさん

なごみ塾の中庭の木が風で揺れて、

葉が舞っているのを見て、

「雪んじよある・・・」

「今年は本当の雪が見られるかなあ・・・」

「寒いのは好かんな!」

吉野秀子さん

口紅を塗った吉野さん(任運荘では初めて)

「薬を探していたら、手に

かかったので、塗ってみました・・・」

「いい色ですね。似合いますよ」

「いや、恥ずかしいわ。」

「あまり見ないで下さい」と照れ笑い。

合澤右八さん

職員同士の話を聞いて、

「あははは!」と久しぶりの大笑いでした。

阿南幸丸さん

奥さんの面会での別れ際、

「阿南さん、ゆつくりお話ができましたか?」

「話さえじよが、いつぺえ

ありすけんき、まだ話し足りん!」

奥さん・「そろあ困った・・・またすべ

来ならんな! また来るけんな!」

児玉ハチヨさん

「児玉さん、今年もあと1ヶ月ちよつとですよ」

「そうなあ・・・もう年越しなあ・・・」

「正月は帰っちみてえなあ・・・」

「ご家族に伝えておきましょうね」

高山ヒデ子さん

干し柿作りをした翌日、「高山さんも干し柿

を酔の物に入れてましたか?」と聞くと、

「入れよつた」とはつきり答えてくれました。

阿南幸丸さん

枕から頭が落ちそうになっていたの、
良くしてあげると、「すまんなあ。」

また来ちくれなあえ、絶対でー!

「また来ますが、眠って待って下さいね」

「うんじや。起きまぢやうち待ちぢやあわ」

工藤ハツヨさん

上野さんと干し柿作りの話をし、「出来たら
食へましようね」と言うのと、後ろで工藤さんが、
「私にも分けてください」と。もちろんです。

上野ハツさん

「あなたを見ちまうじや、孫んじやあな。
元気がいいけん、毎日元気をもちまうぢやあ。
私もあなたたちんまうじや、若かったらな
あ・・・と思つわ」

児玉ハチヨさん

回診の時、阿南医師から、「この前は熱が
あつたけど、だいぶ良うなつたな」といわれると、
「だいぶ良くなつた」とはつきり言いました。

工藤ハツヨさん

トイレに座って、ひとりごと・・・
「食べるのも人には負けないように
食べるし、出すのも出します」

阿南幸丸さん

奥さんの面会の時、奥さん・・・「じゃあもう
用時が済んだんで、私は帰るきな」
「まだ、用時は済んじやらんで、ハハハ」
と名残惜しそうに言いました。

阿南幸丸さん

「今日は散髪ですよ」

「切る髪はねえわあ。」

「今がちよつどいいわあ」

「正月頭にしましょう」

「正月に髪は関係ねえ」

「朝から阿南さんに笑わせてもらいました」

「泣くより、笑った方がいいわあ」

工藤ハツヨさん

ピンクのズボンにはき替えた時、

「ピンクのズボンなんかはいたら、

恋愛をせないかなあ」

「存分に恋愛して下さい」と言うのと、

「してよかろうか?」

「相手がおろつかなあ?」

「工藤さんだったら、いつかはいいですよ」

「ほな、そうしよ〜」

吉良ユキヨさん

吉良さんのベッドから、窓越しに見える干し柿を見て、

「吉良さん、干し柿がおいしそうですわね」

「私んとくん真ん前」あおげん、

取っち食ぶるかもしれんよ」

【それから1週間後…】

「吉良さん、みんなで作った干し柿は

どこに行ったか知りませんか?」

(お腹を押さえて)

「もう、「」に入っちゃいます。ハハハ」

衛藤元吉さん

「この生活に慣れましたか?」

「初めての正月、楽しみです。」

「お母さんの踊りを見るのも好きです!」

衛藤キヨさん

入浴後、上機嫌の衛藤さん。

廊下を歌いながら帰って来る。

その歌は・・・

「お尻かじり虫い〜、

お尻かじり虫い〜」

「良く知ってますね」と言うと、

「テレテレと歌いよるわね〜」

古庄信子さん

古庄さんの前で、他の利用者の

足首を回し、リハビリをしていたら、

「そ〜やってもらったら、血流が

良くなって気持ちいいですわなあ〜」

三代ハツヨさん

部屋替えて、部屋が少し遠くなった三代さん。

検温に行く〜

「わかれわかれ嫌〜ヤ〜ンねばすんません」

羽田野ミヨシさん

面会に来られた娘さんとの会話：

「ばあちゃん、いま食べてるご飯は、

朝・昼・晩のご飯のどれか分かる？」

「ら〜んが〜飯〜」

羽田野節子さん

お孫さんの面会后、

「こんな大きなパンを食べた」

と、手で丸を作りニッコリ。

上野ハツさん

「寮母さん、二十代が一番いいですよ。」

若い時は二度と戻ってこんですよ。

今なら何でもできるから・・・」

「上野さんが二十代だったら、何がしたいですか？」

「外国に行きたいです。オーストラリアに

行っついで〜ん〜ん見〜りた〜いですよ」



門松敏明さん

大相撲と野球観戦が好きな門松さん。
てつきりジャイアンツファンと思い尋ねると、
「中日じゃあ・・・」「中日の誰が好きですか？」
「球団が好きじゃあー！」

工藤ハツヨさん

「この前は京都に行きましたが、
今度はどこに行きたいですか？」
「ふじも行きたい所はねえわ。」
「ふじもさうさうさう」

「ちひよめのもういなあ。
またそついつつ機会があったら
行ってもういっけい、年寄りはんまら
出っせばらん方がうらやますなあ。
自體話になぬけい、しちひはいつつ子を
持ったきなあ。子むも感謝しす」

西ヲシンさん

昼食が団子汁の時、
「家でも作っていましたか？」の問いに
「大きい鍋じ、いっぱい作りよった。
おいしかったわ」と笑顔で答えてくれる。

児玉ハチヨさん

「児玉さんのお父さんの名前を教えてください」
「金作・・・」「お金が貯まりそうな名前ですね」
「ほんじなあ、お父さんち呼びよした。
しちんじよは、ヤチ」ち呼びよした、しんじ

工藤幸子さん

早朝、隣の利用者の顔を拭いていると、
カーテン越しに
「おぢやんいじれさあ。」
「おぢ話にならます」と、
とびつきりの笑顔で言ってくれました。

戸次 榮さん

「電灯が暗く感じるけど、

気のせいでしょうか？」

「あんたん、気のせいじゃわ……」



阿南 幸丸さん

起床時、「今日は何日なの？」

「2月2日です」

「ああ、そつな……」

2月11日、3月11日、4月11日、

4月5月の日の長……」

川野 シズエさん

利用者・職員対話会の時、

「何かお困りの事はありませんか？」

「なあくんも困った事はあつせん。」

バンザイじゃ。ハハハ……」と手を上げる。

渡部 キヨコさん

「渡部さんは、お見合いですか、恋愛ですか？」

と尋ねると、「お見合じゃ……」と、

小さな声で答えてくれました。

渡邊 キヌエさん

草もちを美味しそうに食べたので、

感想を尋ねると、

「死んでも売れんぐらいらい、おいしかった」

と、手で丸を作りニッコリ。

三代チギさん

朝、とても優しい笑顔だったので、「三代さんは、子どもを怒ったりせんかったでしょう？」

「子どもが言ひつじを聞きよったから、

怒るじつがなかったんで

」うらやましい。うちの子どもに聞かせたい・・・」

児玉ハチヨさん

「今朝は寒いですけど、昼は暖かく

なりそうですよ」と声をかけると

「朝がさみいと、風はぬくなるんじや。

そげえ昔から言わんかえ〜」

「そうですねえ」 「そつじゃろお〜」

赤嶺ヒデさん

朝食の食事介助の時、

牛乳とお茶を、自分で楽飲みを持って飲み、

「ああ、うれしい、うれしい。自分で飲めた

と笑顔で言う。

伊東勝見さん

「伊東さん、散歩に行きませんか？」

「寮さんと二人で行く〜、

家内がせつがるかもしれない・・・」

「五嶋さん(男性)も一緒ならいいですか？」

「そら、五嶋さんも

いっしょならいいわなあ〜」と

大笑いする。

阿多テル子さん

「こないだん誕生会ん時、

約束した通り歌を歌うよ。

瀬川英子の命くれないを・・・

あん歌は好きじゃわ〜」

「いい歌ですね〜」



阿南幸丸さん

検温をしたら、微熱があったので、

「少しお熱がありますよ」と伝えると、

「気のせいじゃあ〜」と…。

そんな事はないんですけど…

児玉ハチヨさん

入浴の時、「お湯に入りますよ〜」

「浮かんだ・・プカプカ浮かんだ・・」

と笑顔が見られました。

西ラシンさん

「おはようございます」と言うと、

「毎度おはようございます〜」

と、大きな声で返してくれました。



首藤繁子さん

いつも笑顔で、「ん」「ん」と、おつしやる

首藤さん。「お熱を計りますよ」に、「はっ

とはつきり答えてくれました。

下田ヨシエさん

トイレの介助をしていた時、

「子どもが来ん・・来ん・・」と…。

上野ハツさん

対話会の時、マイクを向けると、

「今日はなあ、寮母さんたちとの

対話じゃから、ペア〜と

大けな声で言わないけん!

ほんとで!」と、とても元気です。

川野シズエさん

「産休で休む寮母にひと言お願いします」

「何じしてん、頑張らならん。障子の

サンが見えんじとなる程じゃまき・・・

とじがかく頑張のなをらじよ」と

アドバイスをくれる。

工藤ハツヨさん

「産休で休む寮母にひと言お願いします」

「あんだ、とげえ言つてん、

頑張ることしかねえんで！

他に言える事は、この上ありません」

衛藤キヨさん

「赤ちゃんが出けたら、

見せに来なあええ！」



阿南幸丸さん

「赤ちゃんはどちらが

産まれるか分かりませんか？」

「女ん子じゃろう・・・」

顔が優しいきい・・・」

と涙ぐまれる。

佐藤義子さん

一緒に入居しているご主人の部屋で、

「のぶちゃん、よしじちゃんが来たよ

と声をかける。

「ご主人は若い時、男前だったでしょうね？」

「へえ、すれちごうた人が、

あとがえつち（振り返って）見るほど

男前じゃったんで」と笑う。そして

「私も、べっぴんじゃったんよー！」

と付け加える。

阿南幸丸さん

「今、戦争の夢を見よった・・・」

「それは怖かったですね・・・何戦争ですか？」

「大東亜戦争じゃー!」

「無事に生きて帰れたんですか？」

「そうじゃあー! じゃあきこにおるんじゃ

アメリカン船が、乗せてくれた」

「良かった、良かった! 今度危ない時は、

私が助けますね」と二人で握手する。

羽田野節子さん

「せんぎいが食べたいです」

「今度、厨房に作ってもらいましょう」



三代チギさん

「久土知は霜がすごかったですよ」

「そりゃあ『霜返り』に

ならんといいいけんとなあ・・・」

「霜返りって何ですか？」

「霜が大そう降ると、

その後天気が悪くなるっち」

本当に週間予報は下り坂でした。

甲斐ヒデコさん

戸外散歩から戻って、「外は寒かったですか？」

「そげえ、さむなかつた」

「また天気の良い日に、散歩に行きましようね」

「うん」 久しぶりに言葉が聞かれました。

あとがき

約7年間書き綴られた「つぶやきノート」。

この「つぶやき集」を編集するにあたり、読み返していくうちに利用者お一人おひとりの顔、そして折々の情景が浮かんできました。寮母の問いかけに、その時々の中の思いがそのまま言葉となっています。はた目には老いて日々喪失していくと思える暮らしの中でも、うづからやからに思いをさせ、たからかな日々をおくってこのようにです。まさに「任運騰々」そのものと気がかされました。

二〇〇八年五月十一日

任運荘広報委員会

特任
運荘

「つぶやき集」

2001年～2008年3月

2008年 5月11日 発行

発 行 任運荘広報委員会

社 会 福 祉 法 人 任運社

特別養護老人ホーム 任運荘

〒879-6601

大分県豊後大野市緒方町馬場 796 番地 1

電 話 (0974) 42-2338

FAX (0974) 42-4187
